

科目名		倫理学				担当教員		清水 俊			
学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		大学や専門学校で倫理学・哲学を担当し、またフィールドワーク調査してきた経験を活かし、専門家に必要な倫理や論理的思考を教えることができる。									
授 業 概 要		基礎から倫理について学び、倫理の必要性や考え方、現代の問題への応用について学習する。									
到 達 目 標		倫理的な考察力を身に着ける。新しい課題に直面した時、自ら考えられる論理的判断力を身に着ける。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	嘘をつくこと(教科書第1節)				カントの考えなどから、「常にすべきこと」という義務について学ぶ。						
2	功利主義(2節)				功利主義的な考え方と、その問題点について学ぶ。						
3	薬の配分方法(3節)				「誰かしか助けられない」ような問題について、自ら考えて答えを出してみる。						
4	エゴイズム (4節)				エゴイズムがどこまで許されるのか、エゴイズムとは何かについて考える。						
5	幸福の計算 (5節)				功利主義の習性案について学ぶ。						
6	判断能力と価値判断 (6節)				判断能力とは何か、それをだれが判断できるのかについて考える。						
7	価値判断と事実判断(7節)				価値がどのように導き出せるかについて学ぶ。						
8	正義の原理 (8節)				正義の原理が定められるかどうかについて学ぶ。						
9	思いやりからの道徳 (9節)				思いやりだけで道徳が成立するか考える。						
10	囚人のジレンマ (10節)				正直者が損をしないためにはどのようにしたらいいか、それが可能かを考える。						
11	愚行権 (11節)				愚かな行為をする権利はどこまであるか、愚かな行為に対してどこまで介入していいのかについて考える。						
12	貧しい人への義務 (12節)				貧しい人、困っている人に対して助けるべきか、誰が助けるべきかについて考える。						
13	未来の人への義務(13節)				未来の人々に対する義務のあり方について学ぶ。						
14	正義の変化 (14節)・科学の限界 (15節)				時代や文化による正義の違いについて考える。 科学の発展に限界を設けるべきかどうかについて考える。						
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める						
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書を読んでおく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()									
教 科 書		現代倫理学入門(講談社学術文庫)									
参 考 書											
授業の留意点・備考											

科目名	基礎科学	担当教員	緒方 茂
-----	------	------	------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		大学院修士課程において細胞生物学及び神経生理学を履修した専任教員が医学の基礎となる生物学、物理学(生体力学)についての講義を行う。大学院において履修した活動電位の細胞内記録法などの経験を活かし、より専門的な知識を教授する。									
授 業 概 要		物理・生物の分野において、医学の基礎となる生体力学や細胞生物学の講義を中心に授業形式で行い必要な知識を習得していく。									
到 達 目 標		細胞の構造と機能および細胞分裂について説明できる。遺伝子の構造と遺伝子発現のしくみの基礎的知識が説明できる。物体の運動について説明でき、また運動とエネルギーの関係について説明できる。									

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
1	力学の基礎①	基本単位と組立単位
2	力学の基礎②	力の合成と分解 ベクトル モーメント
3	力と運動①	時間と空間 変位 速度 加速度
4	力と運動②	運動の法則
5	仕事とエネルギー	仕事とは 力学的エネルギー 位置エネルギー エネルギー保存の法則
6	生体力学への応用	身体として 生体力学と理学療法士・作業療法士との関わりについて
7	生物学における構造と機能	生命現象の捉え方 形の研究(大きさの概念) 生命現象の研究法
8	細胞とその構造①	真核生物と原核生物について
9	細胞とその構造②	細胞小器官(オルガネラ)について
10	細胞の化学成分	水、タンパク質、核酸、脂質、炭水化物、無機塩類 細胞膜の輸送
11	生体内の化学反応	ATPの生合成 解糖系 酸化的リン酸化
12	細胞分裂	新各節物の染色体の構造 体細胞分裂 細胞分裂の周期
13	組織と器官	脊椎動物の組織
14	遺伝情報とその伝達の仕組み	染色体と遺伝子 DNAとその複製 RNAの情報伝達
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習(予習復習)の具体的な内容	教科書を読んでおく
成 績 評 価	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()
教 科 書	系統看護学講座 基礎分野 生物学 第10版:医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版
参 考 書	
授業の留意点・備考	主体的に学ぶことを前提とし、積極的な姿勢で受講すること。

科目名		情報処理					担当教員		山田 光輝 塚本 智子		
学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		東証マザーズに上場した企業のIT責任者として従事し、2004年からデータ復旧やサーバ・ネットワーク構築・PCトラブル解決などのIT会社を経営しています。 2010年からは熊本県公共職業訓練委託訓練校として、離職者を対象とした職業訓練を行い就職支援を行っています。									
授 業 概 要		企業のパソコン利用率は99%を超え、業種・職種を問わずパソコンスキルは今やあらゆる企業で必須なスキルとなり、就職活動やレポート提出には欠かせないツールとなっている。当授業では、Windowsの基礎、フォルダ・ファイル構造を習得し、Word2016・Excel2016を使用した実践形式による基本から応用までの習得を行う。また、就職後、個人情報漏洩の加害者とならないよう患者などの個人情報の取扱についてもマスターする。									
到 達 目 標		●Word2016・Excel2016の効率的な操作方法を習得し実践的な文書作成や表計算方法を習得する。 ●PC基礎、Windows10の操作方法、フォルダ・ファイル構造を理解する。 ●Word・Excel3級技能を習得し、希望者は左記資格を取得することができる。 ●就職後取扱う患者などの個人情報の重要性を理解し、情報セキュリティを理解し適切に取り扱うことができる人材。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション Windows10の基礎と操作方法			Windows10の基礎と基本操作方法 フォルダ、ディレクトリ構造 Word2016の基本、Wordの画面構成、画面操作入力							
2	Word2016入門			Word文章作成、日本語入力システム、文字の入力と変換、保存、編集とコピー、移動など ページ設定、文字の書式設定							
3	ビジネス文書作成①			ビジネス文章にチャレンジする。実践練習問題1							
4	ビジネス文書作成②			ビジネス文章にチャレンジする。実践練習問題2							
5	ビジネス文書作成③			より実践的なビジネス文章の作成に必要なスキル習得 模擬問題1～							
6	ビジネス文書作成④			より実践的なビジネス文章の作成に必要なスキル習得 模擬問題2～							
7	Excel2016入門			データ入力、ワークシート書式設定、グラフの作成、グラフの設定の変更、関数、データベース機能							
8	ビジネス表計算シート作成①			ビジネスで使用される表計算にチャレンジする。実践練習問題1							
9	ビジネス表計算シート作成②			ビジネスで使用される表計算にチャレンジする。実践練習問題2・3							
10	ビジネス表計算シート作成③			より実践的な表計算作成に必要なスキル習得 模擬問題1～							
11	ビジネス表計算シート作成④			より実践的な表計算作成に必要なスキル習得 模擬問題2～							
12	ビジネス文書作成・表計算シート作成			実践的なビジネス文章の作成・実践的な表計算作成に必要なスキル習得まとめ							
13	セキュリティの知識①			インターネットの普及と今後のネット社会動向							
14	セキュリティの知識②			ネット社会による個人情報漏洩問題、情報セキュリティやマルウェア知識							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		授業初日にキーボード操作の確認を行いますので、各自キーボード操作が出来るようにしておくこと（350字程度） ページ数を決めて入力練習をするようにと伝える。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題 （ 10 %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書		30時間でマスター Word2016 (Windows10対応)：実教出版 30時間でマスター Excel2016 (Windows10対応)：実教出版 Word文書処理技能認定試験 3級問題集【2016対応】：ウイネット Excel表計算処理技能認定試験3級問題集【2016対応】：ウイネット									
参 考 書		オリジナルテキスト									
授業の留意点・備考		操作指示と異なる内容（関係の無いサイトの閲覧など）に講じた場合は、即退出させ欠席扱いとする。 理解が早い生徒に関しては上位資格の試験対策を行います。									

科目名		スポーツ・健康学					担当教員		池田 泰介		
学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		中学校・高等学校の保健体育指導および社会教育施設でのスポーツ指導の経験を活かし、子どもから高齢者に対しての運動の必要性やスポーツの特性について、講義・演習を行うことができる									
授 業 概 要		講義や実技を通して、健康の維持・増進に関する基礎的知識を学習し、各種スポーツの特性や技術およびトレーニングの方法についても理解を深め、スポーツの有効性について学ぶ									
到 達 目 標		健康の定義や運動の必要性を説明できる。安全に楽しく運動ができる方法を習得する事ができる。障がい者スポーツの種類とルールについて説明できる。レクリエーション・スポーツの実施計画を作成することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	オリエンテーション					授業概要、達成目標、評価方法、授業の注意点、自己紹介					
2	健康と運動					健康の定義および社会環境と体力について					
3	トレーニング①					無酸素性のトレーニングとその効果					
4	トレーニング②					有酸素性のトレーニングとその効果					
5	心理的スキル					メンタルトレーニングの必要性					
6	準備運動・体操					準備運動の必要性および実践					
7	障がい者スポーツ①					障がい者スポーツの種目・特性					
8	障がい者スポーツ②					ボッチャの特性およびルール・体験					
9	スポーツ・レクリエーションの実施計画①					スポーツ・レクリエーションの実施計画作成					
10	スポーツ・レクリエーションの実施計画②					スポーツ・レクリエーションの実施計画提出					
11	スポーツ・レクリエーション①					ソフトバレーボールの計画・実施					
12	スポーツ・レクリエーション②					車いすバスケットボールの計画・実施					
13	スポーツ・レクリエーション③					卓球の計画・実施					
14	スポーツ・レクリエーション④					バドミントンの計画・実施					
15	まとめ					これまでの授業内容を復習し理解を深める					
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		運動のできる服装・体育館シューズ									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 50 ％） ☒ 実技試験（ 30 ％） ☐ 小テスト（ ％） ☒ レポート（ 10 ％） ☒ 課題 （ 10 ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書		なし									
参 考 書		健康・運動・スポーツのTopics（八千代出版）									
授業の留意点・備考		体を動かす為、体調管理に努めること。 体調が良くない場合は無理をせず担当教員に伝え見学すること。 運動を実施する場合は積極的に参加すること。									

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		精神保健福祉領域の対人援助実務に携わった経験をいかし、対人援助職として身につけておくべき基本的態度や知識について講義・演習を行う。									
授業概要		自分の感情・思考・行動パターンを知り、自己の心のパターンを知る。さらに、対人援助職として対象者との関係性を構築していくために求められる、援助的態度と対話のスキルを習得する。									
到達目標		1. 自身の自我状態を知る 2. 自身の思考・コミュニケーションパターンを知り、アサーティブな表現手段を習得する 3. 対人援助職として求められる基本的態度を習得する 4. 対人援助職として求められる対話の技術を習得する									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	オリエンテーション 自分の心を知る①			TEGを用いて学生自身の自我状態を理解する							
2	自分のコミュニケーションパターンを知る			交流分析の手法を用いて様々なコミュニケーションパターンを理解する							
3	自分の心を知る②			ストロークについて学ぶ。 OKグラムを用いて、自身の「基本的構え」を理解する							
4	自分の心を知る③			「自己認識ゲーム」を通して自己理解を深めることができる							
5	アサーションと自己表現			自己主張のパターンを理解し、アサーティブな自己主張について学ぶ							
6	「怒り」の扱い方			「怒り」の構造を理解し、怒りを上手に表現する方法を学ぶ							
7	グループワーク			グループワークを通して、建設的な自己主張のあり方を演習する							
8	援助的態度について			対人援助職として求められる基本的態度（受容・共感・傾聴）を学ぶ							
9	上手な聞き方①			面接で求められる上手な聞き方の技術を学ぶ							
10	上手な聞き方②			面接のロールプレイを通して、上手な聞き方を演習する							
11	対話について			対話の意義を理解し、様々な対話の技法を学ぶ							
12	ダイアログ実践①			様々な技法を用いた対話を演習する							
13	ダイアログ実践②			様々な技法を用いた対話を演習する							
14	社会人基礎力としてのコミュニケーション			社会人として求められる基本的なコミュニケーションスキルについて学ぶ							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		授業内容を振り返り、理解するための自己学習に努めること。									
成績評価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 10 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教科書		立石雅子他（著），内山靖他（編）：リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論。医歯薬出版、2021。									
参考書		なし ※教員が資料を準備します									
授業の留意点・備考		グループワークなど参加型の授業の場合は、積極的に討議に参加すること。									

科目名	総合教育 I						担当教員	有働 正二郎 山田 勝久		
-----	--------	--	--	--	--	--	------	-----------------	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		10年以上におよぶ専門学校での教育経験と教員研修において教育学を学んだことを活かし、学習の進め方やノートの取り方等の指導ができる。									
授業概要		専門学校における学習の意義や心構え、基本的なスタディースキルを習得することを狙いとし、ここで得られた基本的学習スタイルは、全ての専門教科・専門基礎教科を学ぶための共通技能となる。									
到達目標		専門学校における学習の意義について説明できる。授業を受ける上での心構えについて説明できる。効果的な集中の仕方・記憶の方法について実践できる。効果的な文献の読み方、専門書の活用の仕方、学習補助ツールの活用について実践できる。効果的な自宅学習の進め方・ノートの取り方について実践できる。									
授業計画											
回	テーマ		授業内容								
1	オリエンテーション (有働)		専門学校における学習の心構えについて概略を理解した上で、学習習慣についてしっかりと学ぶ								
2	学習法 (有働)		自己学習の進め方や集中の仕方及び記憶カトレーニングの方法について学ぶ								
3	学習法演習 (有働)		実際に記憶カトレーニングの演習を行う								
4	レポートの書き方とルール (有働)		レポート表紙の書き方やレポート提出のルール、レポート表紙規定やレポート本文規定について学ぶ								
5	図書室の利用法 (有働)		基本的な図書館の利用の方法について学ぶ。								
6	文献検索の方法 (有働)		インターネットを活用した文献検索の方法について学ぶ								
7	雑誌の活用法 (有働)		雑誌の活用法について学び、興味ある内容をまとめる演習を行う								
8	文献の読み方・専門書の活用 (山田)		種々の文献や学習補助ツールの活用法を学び、演習する								
9	ノートの取り方① (山田)		授業におけるノートテイクの仕方について学び、演習する								
10	ノートの取り方② (山田)		授業におけるノートテイクの仕方について学び、演習する								
11	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方① (山田)		自宅学習における学習ノートの活用について学び、演習する								
12	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方① (山田)		自宅学習における学習ノートの活用について学び、演習する								
13	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方② (山田)		自宅学習における小テストの活用について学び、演習する								
14	自宅学習の進め方と自己学習ノートの作り方② (山田)		自宅学習における小テストの活用について学び、演習する								
15	学習習慣について (山田)		自身の学習習慣について振り返り、問題意識を持つ								
準備学習（予習復習）の具体的な内容		ここで学んだ内容を、日々の学習に活かすこと									
成績評価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 10 %） ☒ 課題（ 90 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教科書		なし ※資料は教員が準備します									
参考書		なし									
授業の留意点・備考		参加型の授業の際は、学生同士で積極的に意見を交わすこと									

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		熊本日日新聞社で取材記者やNIE（新聞活用）講座を長年にわたり経験。									
授業概要		どんな進路（職種）にも必要とされるのが社会人基礎力。その中でも「社会を知る、考える、伝える」という学びの流れを重視する。									
到達目標		実社会につながる基本スキルとして、次の「知る」「考える」「伝える」の3つの力を磨く。 ①世の中や身の周りで何が起きているかを「知る」 ②その背景や課題、自分の意見・提言を「考える」 ③考えたことを他人に分かるように「伝える」									
授業計画											
回	テーマ（順不同）			授業内容							
1	答えは一つじゃない			「正解のない問い」にどう答えるか							
2	社会に関心を			ニュース穴埋めクイズ、世相マンガを読み解く							
3	気分はコメンテーター			ニュースに対するコメントを言う、書く							
4	言葉は楽しい			記事見出しを組み合わせる「見出し川柳」コンテスト							
5	要約のワザ			言いたいことは何か～要点をつかむコツ							
6	結論ファースト			結論を先に示し、理由・根拠を後で述べる「先結後各」の表現法							
7	論理的思考と創造性			人まねでない自分ならではの考えを持ち、伝える							
8	中間まとめ			8回の講座を通じての気づきを発表し書く							
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		日頃からニュース（世の中のいろいろな出来事）に関心を持つておくこと									
成績評価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 50 %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 50 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教科書		教科書なし									
参考書		授業当日の新聞（熊本日日新聞）を教材として全員に配布									
授業の留意点・備考		ワークショップ中心の参加型授業を行う。人前での発表や書くことに苦手意識をなくすこと。									

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野	教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		約35年にわたり、大学で「哲学」や「論理学」等の人文系科目の教育研究に従事した経験を生かして、文章表現・読解の指導ができる。									
授業概要		自分の意見や、調べた情報を、的確な文章に表現できることを目指す。そのために、語彙・文法の理解、資料分析の方法、文章読解の要点を学ぶ。手紙文の例を学び、自分で文章を書く練習をする。									
到達目標		本講義により、受講者は、日本語の文章を正しく読解し、その内容をわかりやすい日本語の文章に表現できるようになる。									
授業計画											
回	テーマ（順不同）				授業内容（順不同）						
1	語句及び語彙				文章に出てくる語句・語彙の意味を正しく知る						
2	文法				文法的に正しい言い方・表現法を学ぶ						
3	資料分析				表やグラフ等の資料の分析方法を学ぶ						
4	文章読解				文章読解の基本を学ぶ						
5	文章読解				文章読解の技術を深める						
6	手紙文				手紙文についての基本知識を学ぶ						
7	意見文				意見文を読解し、自分で書いてみる						
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		参考書の指定部分を予め読む。授業内容を深めるため復習する。									
成績評価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☒ レポート（ 90 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教科書		基礎から学べる！文章カステップ 文章検3級対応：公益財団法人日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト3級：公益財団法人日本漢字能力検定協会									
参考書		基礎から学べる！文章カステップ 文章検3級対応：公益財団法人日本漢字能力検定協会 文章検公式テキスト3級：公益財団法人日本漢字能力検定協会									
授業の留意点・備考		国語辞典（電子書籍で可）を持参すること。自分の考えを他者に伝えるにはどうすべきか、常に考えること。受講後に公益財団法人日本漢字能力検定協会 文章読解・作成能力検定を受験すること。									

科目名		国際コミュニケーション					担当教員		ショウナ・エッシャー			
学科	理学療法学科		年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	基礎分野		教育内容	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験			2006年4月からメディカルカレッジ青照館英会話非常勤講師を勤め、現在に至る									
授業概要			*グループ分けして、ボキャブラリーマスター *ウォーミングアップとしてボディランゲージ & アイコンタクトによる会話 *会話カードを作り、評価チェックする									
到達目標			*英語によるコミュニケーションを楽しく学ぶ *会話パートナーとの信頼、相互関係助け合いを形成する *英会話に対し、前向きで意欲的姿勢を形成する									
授業計画												
回	テーマ				授業内容							
1	Introductions: Tell about yourself Find out about others				自分のこと、相手のことをどのようにたずねるか 会話カード#1の作成							
2	Family and Relatives				家族、親戚のことについて述べたり尋ねたりする表現 会話カード#2の作成							
3	Shopping/Money/Numbers				買い物、お金、様々な数に関する会話の指導 会話カード#3の作成							
4	Food. Eating. Restaurants				食に関する英会話全般の指導 会話カード#4の作成							
5	Music. Concerts				音楽に関する様々な表現等の指導 会話カード#5の作成							
6	Theme#1-#5 Mixed practice & bonus games				テーマ#1～#5の復習&コミュニケーションゲームの実施							
7	Review Test #1-#5				テーマ#1～#5の復習テストの実施							
8	Free Time Activities				様々なアクティビティに関する表現等の指導 会話カード#6の作成							
9	Great Holiday Plans. Travel				休暇、旅行の計画、実行に関する様々な表現の指導 会話カード#7の作成							
10	Sports and Recreation				スポーツ、レクリエーションに関する表現の指導 会話カード#8の作成							
11	Friends & Feelings				友人や感情に関する表現の指導 会話カード#9の作成							
12	Part-time Jobs & Working				アルバイト、仕事に関する表現の指導 会話カード#10の作成							
13	Catch up chance for unfinished missed work.				テーマ#1～#10のキャッチアップ							
14	Theme#6-#10 Mixed practice & bonus games				テーマ#6～#10の復習とコミュニケーションゲームの実施							
15	Review Test #6-#10				テーマ#6～#10の復習テストの実施							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			毎回、各テーマ#ごとの重要ワード、フレーズの小テストの作成 復習テストの作成									
成績評価			☒ 定期試験（ 50 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☒ 小テスト（ 40 ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題 （ ％） ☒ 発表 （ 10 ％） ☐ その他（ ）									
教科書			Tools for Increasing Proficiency in Speaking：ウエルオン									
参考書												
授業の留意点・備考			各テーマごとに使う単語、フレーズを使い、コミュニケーション出来るように、生徒に楽しく指導する									

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		8年間理学療法士として病院勤務した経験に基づき、理学療法士の視点で解剖学を講義する。									
授 業 概 要		人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。特に解剖学Ⅰでは骨学について学ぶ。骨は、受動的運動器と称されるように、ヒトの運動に欠かすことのできない器官である。特に療法士にとっては運動器の理解は不可欠となるため、それらについて系統的に学習する。									
到 達 目 標		・解剖学的重要性がわかる。 ・運動器について理解する。 ・骨及び各部位の名称を理解し覚える。 ・人体の構成要素を理解する。 ・解剖学用語を理解し覚える。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	解剖学総論			解剖学の定義、解剖学を学習する目的を理解する。							
2	解剖学用語と人体の区分			解剖学的位置、方向、身体部位を解剖学用語を用いて理解する。							
3	人体の構成、人体の発生			身体は細胞、組織、器官、器官系の階層構造からなることを理解する。							
4	骨学総論			骨の構造や発生について理解する。							
5	骨学各論 頭蓋骨			頭蓋骨の構成と特徴を理解する。							
6	骨学各論 脊柱、胸郭			脊柱、胸郭の構成と特徴を理解する。							
7	骨学各論 上肢帯			上肢帯の構成と特徴を理解する。							
8	骨学各論 自由上肢骨			自由上肢骨の構成と特徴を理解する。							
9	骨学各論 骨盤帯			骨盤帯の構成と特徴を理解する。							
10	骨学各論 下肢帯、骨盤			下肢帯の構成と特徴を理解する。							
11	骨学各論 自由下肢骨			自由下肢骨の構成と特徴を理解する。							
12	関節韧带総論			骨の連結の正常な構造と機能を学ぶ。							
13	関節韧带各論 上肢の連結			上肢の連結を安定性と可動性を理解する。							
14	関節韧带各論 下肢の連結			下肢の連結を安定性と可動性を理解する。							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める。							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		各骨をよく観察し、テキストと比較しながら立体的に捉えること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 (%)									
教 科 書		随時資料配布 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学：医学書院 プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 運動器系：医学書院									
参 考 書		PT・OTビジュアルテキスト 専門基礎 解剖学 第1版：羊土社									
授業の留意点・備考		必要に応じて、小テストを実施するため予習・復習をすること									

科目名	解剖学Ⅱ	担当教員	山本 英夫
-----	------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし講義を行う。									
授 業 概 要		人体を構成している各器官の成り立ちを理解する。解剖学Ⅱでは筋学を学習する。筋は能動的運動器と称され、骨と筋とがヒトの動きを作り出している。特に療法士にとっては運動器の理解は不可欠となるため、それらについて系統的に学習していく。									
到 達 目 標		骨格筋の構造と機能を理解する。各筋の付着部（起始・停止）、神経支配を覚え、その作用を理解する。									

授業計画											
回	テーマ					授業内容					
1	オリエンテーション 筋学総論①					筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、筋に関係する構造、組織について学習する。					
2	筋学総論②					骨格筋の付着部（起始、停止）と作用について学習する。					
3	神経系①					骨格筋と運動に関係する脳及び脊髄の構造を学ぶ。骨格筋の神経支配について学習する。					
4	神経系②					脊髄神経と上肢の筋に分布する腕神経叢について学習する。					
5	神経系③					脊髄神経と下肢の筋に分布する腰神経叢、仙骨神経叢について学習する。					
6	筋学各論 上肢の筋①					上肢帯（肩甲帯）の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。					
7	筋学各論 上肢の筋②					上腕にある屈筋、伸筋の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。					
8	筋学各論 上肢の筋③					前腕にある屈筋群、伸筋群の筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。					
9	筋学各論 上肢の筋④					手の内在筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。					
10	筋学各論 下肢の筋①					股関節周囲にある筋の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。					
11	筋学各論 下肢の筋②					大腿部にある伸筋群、内転筋群、屈筋群の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。					
12	筋学各論 下肢の筋③					下腿部、足部にある背屈筋群と底屈筋群、腓骨筋群の名称、構造と付着部、筋の作用について学習する。					
13	筋学各論 体幹の筋①					頭部、頸部にある筋の名称、構造と筋の働きについて学習する。					
14	筋学各論 体幹の筋②					胸部、腹部、背部にある筋の名称、構造と筋の働きについて学習する。					
15	まとめ					これまで学習したことを復習し、理解を深める。					

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	毎回小テストで確認していくため、各項の復習を欠かさず取り組み、確実に覚えていくこと。
成績評価	☒ 定期試験（60%） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（40%） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)
参考書	なし
授業の留意点・備考	各自の身体や模型を用いて文字だけの理解ではなく、3次元でのイメージ構築できることを目標とする。

科目名	解剖学Ⅲ	担当教員	田中裕己
-----	------	------	------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		回復期リハビリテーション病院で勤務した経験を活かし、神経系の解剖について講義することができる。									
授 業 概 要		人体を構成している神経系の成り立ちを理解する。療法士に必要な不可欠な神経系について系統的に学習していく。神経疾患はリハビリで扱う代表な部分である、疾患理解のために、各部位の位置関係、働きも学習していく。									
到 達 目 標		神経系の構造、位置関係を認識する。神経系の働きを理解する。疾患や検査、治療のために神経系の学習が必要であることを知る。									

授業計画

回	テーマ	授 業 内 容
1	神経系総論について	神経系の概要について学習する
2	神経系の循環について	脳血管系と脳室について学習する
3	脊髄について	脊椎や脊髄神経について学習する
4	脳幹について	中脳・橋・延髄について学習する
5	小脳について	小脳中部・小脳半球について学習する
6	間脳について	視床、視床下部について学習する
7	終脳について①	大脳皮質や灰白質について学習する
8	終脳について②	大脳基底核や大脳辺縁系について学習する
9	伝導路について①	下降性伝導路について学習する
10	伝導路について②	上行性伝導路について学習する
11	末梢神経について①	脊髄神経について学習する
12	末梢神経について②	神経叢について学習する
13	末梢神経について③	脳神経について学習する
14	末梢神経について④	自律神経について学習する
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習(予習復習)の 具体的な内容	指定教科書の該当箇所について、事前に目を通しておく
成 績 評 価	☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (20 %) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 (%)
教 科 書	標準理学療法学・作業療法類 専門基礎分野 解剖学 第5版：医学書院
参 考 書	特になし
授業の留意点・備考	特になし

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		国立大学医学部及び医療系専門学校において解剖学の講義・実習を担当した経験を活かし、人体の構造と機能について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		解剖学では、人体を構成する各器官の構造と立体配置について学習する。そのうち、解剖学Ⅳでは医療および疾患の理解に必要な内臓や感覚器の正常構造と立体配置について学習する。									
到 達 目 標		各器官の構造と立体配置を説明できる。解剖学の知識を各種検査や治療手技へ応用できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	感覚器系①			講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。(外皮・視覚器)							
2	感覚器系②			講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。(平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器)							
3	循環器系①			講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。(全体像)							
4	循環器系②			講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。(心臓)							
5	循環器系③			講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。(動脈系)							
6	循環器系④			講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。(静脈系)							
7	循環器系⑤			講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。(胎児循環、リンパ系)							
8	消化器系①			講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。(全体像)							
9	消化器系②			講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。(口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸)							
10	消化器系③			講義を通して、各器官の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。(肝臓、胆嚢、膵臓)							
11	呼吸器系			講義を通して、呼吸器系の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。							
12	泌尿器系			講義を通して、泌尿器系の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。							
13	生殖器系			講義を通して、生殖器系の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。							
14	内分泌系			講義を通して、内分泌系の構造と立体配置を理解し解剖学の基礎的知識を身につける。							
15	まとめ			重要事項を復習し、解剖学の基礎的知識を身につける。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		毎回の講義内容について、教科書を一読しておく。その日の講義内容を復習し、重要なポイントを整理しておく。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第5版：医学書院									
参 考 書		なし									
授業の留意点・備考		不明な点は、授業中に積極的に質問して貴重な時間を有効活用すること。									

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		理学療法士として、主に急性期から回復期における病院勤務の中で、実際のリハビリテーションに関わった経験を活かし講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		解剖学演習は解剖学等で学んだ人体の構造について、教科書等の平面上で覚えた知識を立体的に3Dへ変換していく科目である。主に人体模型を用いたり、体表解剖学として体表面からの観察や骨および筋を体表から触診（触察）し、それぞれの位置関係を明確にしていく。									
到 達 目 標		人体の構造を三次元に理解しながら、骨指標を正確にとらえることができ、骨や筋の触診（触察）を行う中でその位置や特徴を把握できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			触診（触察）技術の基礎と技法について学ぶ							
2	上肢における骨指標①			上肢における骨の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
3	上肢における骨指標②			上肢における骨の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
4	肩甲上腕関節の運動に関わる主な筋			肩甲上腕関節周囲筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
5	肘関節の運動に関わる主な筋			肘関節周囲筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
6	手関節および手指に関わる主な筋			手関節および手指に関わる筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
7	下肢における骨指標①			下肢における骨の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
8	下肢における骨指標②			下肢における骨の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
9	股関節の運動に関わる主な筋			股関節周囲筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
10	膝関節の運動に関わる主な筋			膝関節周囲筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
11	足関節および足部の運動に関わる主な筋			足関節および足部に関わる筋の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
12	胸郭・脊柱における骨指標			胸郭・脊柱における骨の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
13	胸郭・脊柱に関連する主な諸組織			胸郭・脊柱に関連する主な諸組織の形態的特徴を学習し、触知して理解を深める							
14	全身の骨指標についての触察			臨床でも触察の機会が多い骨指標を復習し、触知して理解を深める							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習(予習復習)の具体的な内容		触診（触察）には、指先の感覚の鍛錬が必要。日頃から自主的にも時間を作り、標本や体表に触れて練習を行ってください。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 60 %） ☒ 実技試験（ 20 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題 （ 20 %） ☐ 発表 （ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書		運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 MEDICAL VIEW 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 MEDICAL VIEW									
参 考 書		骨格筋の形と触察法 改訂第2版 大峰閣									
授業の留意点・備考		演習では体表に触れて学習するため、爪を必ず切る。軽装とバスタオルを毎回準備する。特に演習の際は積極的に触察に参加し理学療法士として大切になる手指の感覚を養えるよう1人1人が集中し努力する。									

科目名	生理学Ⅰ	担当教員	中西 宏之
-----	------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	医学部医学科での生理学、生化学、薬理学の講義ならびに看護学科での解剖学、生理学の講義に係った経験を活かし、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士のための生理学の講義を行うことができる。
-----------	--

授業概要	生理学は生命活動のしくみを解き明かすことを目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。
------	---

到達目標	生理学における重要事項を説明できる。器官・組織の機能とその仕組みを説明できる。生理機能と理学療法・作業療法・言語聴覚療法と関連を説明できる。
------	--

授 業 計 画											
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	細胞の構造と機能①	細胞膜の機能、細胞内小器官を学ぶ
2	細胞の構造と機能②	静止電位、活動電位の発生メカニズムを学ぶ
3	血液①	血球の組成、赤血球・白血球の役割を学ぶ
4	血液②	血液の凝固・線溶、血漿成分、血液型を学ぶ
5	血液③	非特異的生体防御、免疫反応、Tリンパ球・Bリンパ球を学ぶ
6	血液④	自然免疫・獲得免疫、液性免疫・細胞性免疫を学ぶ
7	心臓と循環①	心臓の構造と働きを学ぶ
8	心臓と循環②	心臓の自動性と刺激電動系について学ぶ
9	心臓と循環③	心電図の記録法と各波形の意味を学ぶ
10	心臓と循環④	心拍出量と血圧について学ぶ
11	心臓と循環⑤	血圧の調節メカニズムを学ぶ
12	心臓と循環⑥	微小循環における物質交換を学ぶ
13	呼吸とガスの運搬①	気道の構造とその役割を学ぶ
14	呼吸とガスの運搬②	呼吸運動と呼吸器気量の分画を学ぶ
15	呼吸とガスの運搬③	ガス交換・ガス運搬を学ぶ

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	呼吸とガスの運搬④	化学受容器と呼吸の調節を学ぶ
17	消化と吸収①	消化管の構造と消化メカニズムを学ぶ
18	消化と吸収②	消化液・栄養の吸収を学ぶ
19	消化と吸収③	消化管ホルモン、消化管の調節を学ぶ
20	消化と吸収④	肝臓、膵臓の構造と役割を学ぶ
21	腎臓と排泄①	腎臓の構造と役割を学ぶ
22	腎臓と排泄②	尿の生成メカニズムを学ぶ
23	腎臓と排泄③	クリアランス、糸球体濾過量、腎血漿流量を学ぶ
24	腎臓と排泄④	畜尿反射と排尿反射を学ぶ
25	酸塩基平衡①	血漿pH調節について学ぶ
26	酸塩基平衡②	アシドーシスとアルカローシスについて学ぶ
27	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
28	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
29	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
30	前期復習	小テストを利用して前期の復習を行う
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。小テストで5点以下（10点満点）の場合は間違った問題のやり直しを行い、提出する。
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版：医学書院
参 考 書		消して忘れない 生理学要点整理ノート（PT、OT必修シリーズ） 羊土社
授業の留意点・備考		授業中に講義内容と関連した練習問題を行う。次回講義前に小テストが行なわれるので、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。

科目名	生理学Ⅱ	担当教員	中西 宏之
-----	------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義
----	--------	----	---	-----	----	-----	---	----	----	------	----

区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達	選択・必修	必修
----	--------	------	-----------------	-------	----

担当教員の実務経験	医学部医学科での生理学、生化学、薬理学の講義ならびに看護学科での解剖学、生理学の講義に係った経験を活かし、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士のための生理学の講義を行うことができる。
-----------	--

授 業 概 要	生理学は生命活動のしくみを解き明かすことを目的とした学問であり、解剖学と密接に関連した医学の基礎となるものである。まず、生命現象の基本となる細胞機能、ついで植物と動物に存在する機能、そして動物に特有な機能として、生理学を理解していく。
---------	---

到 達 目 標	生理学における重要事項を説明できる。器官・組織の機能とその仕組みを説明できる。生理機能と理学療法・作業療法・言語聴覚療法と関連を説明できる。
---------	--

授 業 計 画					
---------	--	--	--	--	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	内分泌①	ホルモンの作用、種類、発現メカニズムを学ぶ
2	内分泌②	ホルモンの分泌調節を学ぶ
3	内分泌③	下垂体・視床下部・甲状腺・副甲状腺のホルモンを学ぶ
4	内分泌④	副腎皮質・髄質・膵臓・性腺などのホルモンを学ぶ
5	筋と骨①	骨格筋の構造と機能を学ぶ
6	筋と骨②	骨格筋の収縮メカニズムを学ぶ
7	筋と骨③	筋紡錘・ゴルジ腱器官を学ぶ
8	筋と骨④	心筋・平滑筋と骨について学ぶ
9	神経系①	神経細胞の構造を学ぶ
10	神経系②	興奮の発生と伝道を学ぶ
11	神経系③	神経線維の種類を学ぶ
12	神経系④	シナプスについて学ぶ
13	末梢神経①	末梢神経の分類について学ぶ
14	末梢神経②	脳神経・脊髄神経を学ぶ
15	末梢神経③	交感神経・副交感神経を学ぶ

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	末梢神経④	神経伝達物質について学ぶ
17	中枢神経①	脊髄の構造と機能を学ぶ
18	中枢神経②	脊髄反射を学ぶ
19	中枢神経③	延髄・橋・中脳・視床・視床下部・小脳の構造と機能を学ぶ
20	中枢神経④	大脳皮質、睡眠、脳脊髄液、血液脳関門について学ぶ
21	感覚①	体性感覚、内臓感覚を学ぶ
22	感覚②	聴覚・平衡感覚を学ぶ
23	感覚③	視覚について学ぶ
24	感覚④	嗅覚・味覚について学ぶ
25	代謝と体温①	各栄養素の意義と代謝を学ぶ
26	代謝と体温②	体温の調節と発熱メカニズムを学ぶ
27	運動生理①	筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源を学ぶ
28	運動生理②	運動に伴う全身の変化、トレーニングと老化について学ぶ
29	後期復習①	小テストを利用して後期の復習を行う
30	後期復習②	小テストを利用して後期の復習を行う
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んで予習をする。講義プリント、練習問題を復習し、小テストの準備を行う。小テストで5点以下（10点満点）の場合は間違った問題のやり直しを行い、提出する。
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版：医学書院
参 考 書		消して忘れない 生理学要点整理ノート（PT、OT必修シリーズ） 羊土社
授業の留意点・備考		授業中に講義内容と関連した練習問題を行う。次回講義前に小テストが行なわれるので、授業終了後は必ず復習すること。疑問点が生じたときは教科書や参考書、さらには教官の積極的に活用すること。

科目名	生理学演習	担当教員	緒方 茂
-----	-------	------	------

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	患者の症状を生理学的側面から捉えるため、研修や大学院等で基礎的な生理現象の理解に努めてきた。
授 業 概 要	1年次で学んだ生理学を基礎とする。主要なテーマについて、計測を行い、結果を分析・解釈し、レポートを作成する。内容の理解を確認するため演習問題を実施する。卒業研究の基礎のひとつとなる。臨床実習で求められる技術も含まれる。
到 達 目 標	生理学の主要なテーマについて、実際に検査・測定することで理解を深める。 人の体と心を意識して、被験者の気持ちを理解し、人と接する態度を向上させる。 治療に役立つ生理学的データを得るための、科学的方法の基礎を身につける。 得た知見をレポートとして他の人に伝える能力を養う。

圖 計 業 授

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 体温調節	体温調節の生理学
2	体温調節	体温調整の生理学
3	体温調節	体温調節の生理学
4	身体組成	身体組成モデルと基本的な身体計測額の指標
5	身体組成	身体組成指標とその測定方法
6	身体組成	身体組成計測
7	血圧測定	血圧の原理と取り扱い方
8	血圧測定	血圧の原理と取り扱い方
9	血圧測定	運動負荷前後の血圧の変化
10	血圧測定	運動負荷前後の血圧の変化
11	エルゴメーターによる体力測定	体力とは 体力の種類について
12	エルゴメーターによる体力測定	最大酸素摂取量とは
13	エルゴメーターによる体力測定	体力測定
14	エルゴメーターによる体力測定	体力測定
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	予習は教科書に軽く目を通しておき、講義の資料および個人の学習ノートを用いて復習を行なう。
成績評価	☐ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 100 %） ☐ 課題（ 10 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教科書	特に無し
参考書	入門運動生理学 基礎運動学第6版補訂 その他、図書室生理学教科書を参照
授業の留意点・備考	1年次の生理・解剖・運動学を再度学習するつもりで、さらに理解を深めていく。

科目名	運動学	担当教員	山本 英夫
-----	-----	------	-------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	4	時数	60	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし講義を行う。										
授業概要	本授業では、人体の構造と機能及び心身の発達を理解するために、運動学の基礎となる力やてこなどの生体力学や、関節の基本構造、筋の収縮の様式や関係する神経機能について学習する。また、上肢、下肢、体幹の各関節の特徴と機能、運動について学習する。										
到達目標	身体の関節の特徴的な構造と機能を説明できる。また、関節の動きや筋の作用、靱帯やその他器官の機能を理解しイメージできる。また、それを各関節のみでなく人の全身の動きの中で理解し他に説明することができる。										

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	運動学とは何か。
2	生体力学の基礎①	運動と力について学習する。力の概念、重心、力のモーメント、てこについて学習し力学的基礎を身につける。
3	生体力学の基礎②	運動と力について学習する。力の概念、重心、力のモーメント、てこについて学習し力学的基礎を身につける。
4	生体力学の基礎③	運動と力について学習する。力の概念、重心、力のモーメント、てこについて学習し力学的基礎を身につける。
5	運動器の構造と機能①	骨、関節、筋の構造と機能について学習する。
6	運動器の構造と機能②	基本の肢位と面、運動の名称について学習する。
7	神経系の構造と機能	運動に関係する神経系の機能について学習する。
8	肩甲帯・肩関節の運動学①	肩複合体（肩甲上腕関節、肩鎖関節、胸鎖関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
9	肩甲帯・肩関節の運動学②	肩複合体（肩甲上腕関節、肩鎖関節、胸鎖関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
10	肩甲帯・肩関節の運動学③	肩の運動に関係する筋の働きについて学習する。
11	肘関節の運動学	肘（腕尺関節、腕橈関節、上橈尺関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
12	前腕の運動学①	前腕（上橈尺関節、下橈尺関節）を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
13	前腕の運動学②	肘関節、前腕の運動に関係する筋の働きについて学習する。
14	手指の運動学①	手と手指を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
15	手指の運動学②	母指の運動について学習する。手指屈筋、伸筋機構について学習する。手関節、母指、手指の運動に関係する筋の働きについて学習する。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	股関節の運動学①	股関節を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
17	股関節の運動学②	股関節を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
18	膝関節の運動学①	膝関節を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
19	膝関節の運動学②	膝関節を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
20	股・膝関節の筋	股・膝の運動に関係する筋の働きについて学習する。
21	足関節および足部の運動学①	足関節および足部を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
22	足関節および足部の運動学②	足関節および足部を構成している骨、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
23	足関節および足部の筋	足関節および足部の運動に関係する筋の働きについて学習する。
24	脊柱の運動学①	脊柱を構成している椎間板、靱帯などの軟部組織の構造と、その特徴や機能を学習する。
25	脊柱の運動学②	頸椎の構造と、その特徴や機能を学習する。
26	脊柱の運動学③	胸椎、腰椎の構造と、その特徴や機能を学習する。呼吸運動について学習する。
27	脊柱の運動学④	脊柱の運動に関係する脊柱起立筋や腹筋などについて学習する。
28	姿勢	姿勢とは、立位姿勢とアライメント、重心、姿勢調整について学習する。
29	姿勢	姿勢とは、立位姿勢とアライメント、重心、姿勢調整について学習する。
30	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		毎回小テストで確認していくため、各項の復習を欠かさず取り組み、確実に覚えていくこと。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 60 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 40 %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学（医学書院）
参 考 書		プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系（医学書院）
授業の留意点・備考		各自の身体や模型を用いて文字だけの理解ではなく、3次元でのイメージ構築できることを目標とする。

科目名		臨床運動学					担当教員		山下 俊			
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野		教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			運動に対する身体機能の反応と変化を運動器疾患リハビリテーションの経験を基に講義・演習を行う。									
授 業 概 要			解剖学や生理学、運動学の知識を統合し、ヒトの動きの基礎を学ぶ。姿勢、基本動作、歩行を中心に正常（健常）の動作の基礎となる用語、機能的役割、原理を理解し、異常な現象や動作の要因となりうるところを推測できるようになるための基盤を習得する。									
到 達 目 標			姿勢、基本動作、歩行などのヒトの正常（健常）な動作を理解する。 正常のヒトの姿勢や動作についての国家試験を解釈できるようになる。 姿勢における重心位置や姿勢制御について説明することができる。 基本動作における正常パターンについて説明することができる。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	臨床運動学 総論				身体運動のメカニズムや身体構造の仕組みを理解する。							
2	寝返り動作				寝返り動作の運動パターンを理解する。							
3	起き上がり動作				起き上がり動作の運動パターンを理解する。							
4	寝返り・起き上がり動作 演習				実際に寝返り・起き上がり運動を行い、メカニズムを理解する。							
5	起立・着座動作				起立・着座動作の運動パターンを理解する。							
6	起立・着座動作 演習				実際に起立・着座動作を行い、メカニズムを理解する。							
7	股関節の臨床運動学				股関節の解剖・運動学を理解し、歩行動作と関連付ける。							
8	膝関節の臨床運動学				膝関節の解剖・運動学を理解し、歩行動作と関連付ける。							
9	足関節の臨床運動学				足関節の解剖・運動学を理解し、歩行動作と関連付ける。							
10	脊柱の臨床運動学				脊柱の解剖・運動学を理解し、歩行動作と関連付ける。							
11	歩行①				正常歩行の運動パターン、身体重心の移動を理解する。。							
12	歩行②				歩行動作を可能にするメカニズムを理解する。							
13	歩行 演習				実際に歩行を行い、メカニズムを理解する。							
14	歩行障害④				代表的な歩行障害の症状について理解する。							
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			講義ごとに随時復習を行い、理解度を高めること。 1年次に学習した解剖・運動学を復習すること。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 90 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☒ 小テスト（ 10 ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書			随時資料配布、基礎運動学 第6版補訂：医歯薬出版株式会社 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実際：MEDICAL VIEW 観察による歩行分析：医学書院									
参 考 書			プロメテウス解剖アトラス 解剖総論運動器系 第3版：医学書院、動作のメカニズムがよくわかる 実践！ 動作分析：医歯薬出版株式会社、日常生活活動の分析-身体運動学的アプローチ：医歯薬出版株式会社									
授業の留意点・備考			動作観察および分析を行い、動画を撮影できるものを準備する。使用する際は事前に準備の連絡を行う。 演習を行う際は、軽装の準備をすること。									

科目名	人間発達学	担当教員	山本 麻代
-----	-------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		小児臨床に携わった経験を活かし、リハビリテーションにおいて理解すべき小児の運動発達について講義・指導ができる									
授 業 概 要		小児の運動発達の基盤となる発達概念、発達理論を理解し、姿勢反射、反応から始まる正常な運動発達を時期とともに段階的に学ぶ。									
到 達 目 標		正常な小児の運動発達を学習し、どのような順番で運動を獲得していくのかを説明できる。									

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	映像をみながら小児の運動発達のイメージを作る。(DVD)
2	発達概念	人間発達を表現する用語や発達の流れを学ぶ。
3	人間発達(発達理論)	発達理論モデルを理解する。
4	姿勢反射・反応①	姿勢反射・反応の出現と消失を時期とともに学ぶ。
5	姿勢反射・反応②	姿勢反射・反応の出現と消失を時期とともに学ぶ。
6	運動発達(0～3ヶ月)	0～3ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。
7	運動発達(4～6ヶ月)	4～6ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。
8	運動発達(7～9ヶ月)	7～9ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。
9	運動発達(10～12ヶ月)	10～12ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。
10	運動発達(13～18ヶ月)	13～18ヶ月児の運動発達の推移を学ぶ。
11	上肢機能の発達	上肢機能と物の操作の発達を学ぶ。
12	ADLの発達①	遊び・食事・排泄・更衣の発達を学ぶ。
13	ADLの発達②	遊び・食事・排泄・更衣の発達を学ぶ。
14	感覚・知覚・認知・社会性の発達	感覚・知覚・認知・社会性の大きな発達を学ぶ。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習(予習復習)の具体的な内容	1コマごとに小テスト、課題プリントを出すので、授業の復習をしながら毎回の課題に取り組むこと。
成 績 評 価	☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☒ レポート (10 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()
教 科 書	イラストでわかる人間発達学 医歯薬出版株式会社
参 考 書	
授業の留意点・備考	課題の締め切りは必ず守ること。

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	人体の構造と機能及び心身の発達						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験	地域リハビリテーションにおける介護予防事業において、地域高齢者への転倒予防教室や介護予防体操などの経験から、運動が及ぼす身体への影響や実際の運動への取り組み方について講義を行う事が出来る。										
授 業 概 要	近年死因の第1位は、悪性新生物だが、それ以降の死因は、生活習慣病（動脈硬化性疾患）が主である。この生活習慣病に対して運動処方に基く身体運動は推奨される手段の一つであるが誤った方法は、身体に不利益をもたらす可能性がある。本科目は、運動処方の基礎理論を深め、運動による身体反応（運動生理学）を理解し、各疾患の運動療法へ繋げる。										
到 達 目 標	運動に対する身体器官（筋・神経・循環・代謝・呼吸）の反応と変化を理解し、運動により身体が受ける影響を説明できるようになる。										
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			講義の進め方や受講時の注意点を理解する。							
2	筋の運動生理学①			筋収縮とエネルギー供給系について学ぶ							
3	筋の運動生理学②			筋線維の種類とその特徴について考える。							
4	筋の運動生理学③			筋収縮における神経の役割と収縮様式と筋力の関係について学ぶ。							
5	換気の運動生理学①			呼吸器系の構造と換気メカニクスについて学ぶ							
6	換気の運動生理学②			呼吸筋疲労および呼吸中枢と呼吸調整について学ぶ							
7	ガス交換の運動生理学①			ガス交換と呼吸代謝について理解する							
8	ガス交換の運動生理学②			呼吸代謝の指標と運動時の呼吸循環応答について学ぶ							
9	循環の運動生理学①			循環系の構造と心周期について考える							
10	循環の運動生理学②			一回拍出量・心拍数・心拍出量および心血管の機能的特性について学ぶ							
11	循環の運動生理学③			心血管の自律神経系の調節と血圧について学ぶ							
12	循環の運動生理学④			受直と運動による循環応答と最大酸素摂取量への影響因子を理解する。							
13	体温・栄養・内分泌の運動への関わり			外部環境及び運動と体温調節について学ぶ							
14	身体組成とトレーニング効果①			基本的な身体計測的指標とその測定方法について学ぶ							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		予習は教科書に軽く目を通しておき、講義の資料および個人の学習ノートを用いて復習を行なう。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 10 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		リハビリテーション運動生理学									
参 考 書		入門運動生理学 基礎運動学第6版補訂 その他、図書室生理学教科書を参照									
授業の留意点・備考		1年次の生理・解剖・運動学を再度学習するつもりで、さらに理解を深めていく。									

科目名		基礎医学特論演習					担当教員		理学療法学科教員			
学科	理学療法学科		年次	4	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門基礎分野		教育内容		人体の構造と機能及び心身の発達					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			大学院修士および博士課程の経験のもと、国家試験の専門基礎分野における人体の構造と機能の指導を行う事が出来る。									
授 業 概 要			国家試験の専門基礎分野における解説を行い、国家試験への対応を習得させる。									
到 達 目 標			国家試験専門基礎分野領域の合格点への到達									
授 業 計 画												
回	テーマ					授 業 内 容						
1	オリエンテーション					講義内容の説明						
2	国家試験について①					近年の国家試験の動向を説明する。						
3	国家試験について②					理学療法士国家試験の枠組みとその構造について説明をする。						
4	国家試験について③					国家試験までのスケジュールを大まかに説明する。						
5	解剖学①					中枢神経(脳・脊髄)について学習を行なう。						
6	解剖学②					脳神経・末梢神経について学習を行なう。						
7	解剖学③					脳血管・循環器系について学習を行なう。						
8	解剖学④					内臓諸器官および骨・関節について学ぶ。						
9	解剖学⑤					神経筋支配、筋・靱帯、発声と組織について学習する。						
10	生理学・病理学①					代謝、血液について学ぶ。免疫、循環について学ぶ。						
11	生理学・病理学②					呼吸、消化と呼吸、排泄について学ぶ。						
12	生理学・病理学③					内分泌、女性の生理・妊娠・出産について学ぶ。						
13	生理学・病理学④					神経系および感覚と受容器、病理について学ぶ。						
14	生理学・病理学⑤					顔面および頸部・体幹の運動学について学習を行なう。						
15	運動学②					上肢、下肢の運動学について学ぶ。						

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	運動学③	姿勢および歩行について学ぶ
17	運動学④	バイオメカニクス、椅子からの立ち上がり、筋の収縮様式、学習運動について学ぶ。
18	人間発達学・小児科学	小児疾患および小児の運動発達について学ぶ。
19	内科学①	呼吸器疾患・循環器疾患について学ぶ。
20	内科学②	消化器疾患、代謝内分泌疾患について学ぶ。
21	臨床神経医学①	高次脳機能障害、脳・神経の病態生理を学ぶ。
22	臨床神経医学②	脳血管障害、認知症、自己免疫疾患、筋疾患を学ぶ。
23	臨床心理学	防衛機制、移転記憶、発達心理、心理テストを学習する。
24	精神医学①	統合失調症、気分障害、薬物療法について学ぶ。
25	精神医学②	神経症性障害、小児の精神医学、転換、パーソナリティ障害について学習する。
26	整形外科①	骨折、脱臼について学ぶ。
27	整形外科②	末梢神経障害、脊髄・脊椎疾患及び損傷について学ぶ。
28	整形外科③	変形性関節症、小児整形外科、切断について学ぶ。
29	リハビリテーション概論	リハビリテーション概論、リスク管理感染症について学ぶ。
30	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		日々の国家試験過去問やりハナビでの問題回答をしっかりと行なっていく。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 10 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		クエスチョンバンク理学療法士作業療法士国家試験問題解説2021共通問題
参 考 書		その他、基礎系科目の教科書
授業の留意点・備考		自分ひとりでの勉強ではなく、グループ学習を通して国家試験合格率の向上に努める。

科目名		臨床心理学					担当教員		井田 博子			
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			臨床心理士（カウンセラー）としての経験から、来談者の力を引き出し支援する様々のとりくみを紹介し、リハビリテーション実践に活かせる視点を提供したい。									
授 業 概 要			臨床心理学の中心的な課題を、実際の観点から深め、人間理解と臨床のセンスの基礎を身につけられるようにする。									
到 達 目 標			臨床心理学の基礎を学び、対人関係を有効に用いた支援から、リハビリテーション実践に役立つ観点を身につける。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	オリエンテーション「自我の強さと悩む力」				自我の強さは年令によって、経験によって、育つものであることを学ぶ。							
2	心理査定と心理療法				心理的支援の前に来談者の状況や問題点等をとらえることの重要性を示す。							
3	個人療法と集団療法				来談者とセラピストの1対1関係だけでなく、グループを用いる治療についても学ぶ。							
4	家族療法とその他の心理療法				子どもの問題では、家族間コミュニケーションの調整が有効であることを学ぶ。							
5	ストレスと心理的反応				多忙やコミュニケーション不全等の様々のストレスと心身の不調について考える。							
6	心の病のいろいろ				体質的問題の大きいものや、生育上の環境に関連するもの等の紹介をする。							
7	文化や文明とストレス				ハイテクの生活環境と心身の自然について考える。							
8	心の健康				日頃からとりくむ心の健康への留意点を紹介する。							
9	心理テストの種類				心理テストから理解される個人差（個性）について考える。							
10	性格と無意識の行動				本人の行動パターンには自覚できる部分と無自覚の部分があることを知る。							
11	性格とストレス耐性				本人の認知や行動のパターンとストレスへの強さ弱さについて考える。							
12	自己理解と他者理解				思春期・青年期の友だち関係などから自・他の理解が広がることを学ぶ。							
13	事例から学ぶ（1）				日常の対人関係でも出会う、了解できにくい言動について考える。							
14	事例から学ぶ（2）				他者の言動の理不尽さに巻き込まれた事例と自らの言動の理不尽さに気づいた事例の紹介。							
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			シラバスや配布された資料をよく読み、なじみのない言葉や言葉づかいは、辞書で調べておき、はっきりしない場合は質問すること。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教 科 書			講師の先生が資料を準備									
参 考 書			宇治原寛・杉原保史共編『臨床心理学入門 理解と関わりを深める』培風館									
授業の留意点・備考			この教科の配布資料は、他の教科のものとは別に、単独のファイルにすること。									

科目名	病理学				担当教員	熊本大学大学院			
-----	-----	--	--	--	------	---------	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進				選択・必修		必修		
担当教員の実務経験		病理疾患の研究に携わった経験を講義に活用する。									
授 業 概 要		適切なりハビリテーションを実践するためには、疾病についての基礎的な知識を修得している必要がある。本講義では、疾病についての基礎的な知識や病態生理を教授し、さらに病理学の魅力についても伝えたい。									
到 達 目 標		・専門科目の学習に必要な最低限の病理学的知識と、生涯学習の方法を修得すること。 ・疾病の基礎的な概念を理解している。 ・主な疾病の病態生理について説明できる。 ・問題解決型の学習法を修得している。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	オリエンテーション 病因論：先天異常				病理学の概要、病因論（外因性疾患と内因性疾患）について学ぶ。						
2	病因論：感染症				日和見感染症、誤嚥性肺炎、結核症、肝炎ウイルスについて学ぶ。						
3	免疫反応				自然免疫と適応免疫、アレルギー、免疫不全等について学ぶ。						
4	腫瘍総論				腫瘍の分類、形態学、組織学的特徴について学ぶ。						
5	循環器障害				循環器系の概要、構成、全身の循環障害、局所の循環障害等について学ぶ。						
6	退行性・進行性病変				萎縮の種類について、褥瘡の原因、壊死とアポトーシスの違い、肥大と過形成等について学ぶ。						
7	老化・遺伝子異常・内分泌系の疾患				各疾患について学ぶ。						
8	病理学各論：循環器				虚血性心疾患、心筋症、心筋炎、先天性心疾患等について学ぶ。						
9	病理学各論：消化器				各疾患について学ぶ。						
10	病理学各論：肝・胆嚢・膵				肝障害、代謝異常、胆嚢および胆道、膵炎等について学ぶ。						
11	病理学各論：呼吸器				上気道の疾患、腫瘍、下気道の疾患等について学ぶ。						
12	病理学各論：泌尿器				腎臓、下部尿路の疾患について学ぶ。						
13	病理学各論：中枢神経				脳・神経系の疾患、感染症等について学ぶ。						
14	病理学各論：血液疾患				赤血球系・白血球系・血小板・リンパ節の病理について学ぶ。						
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める						
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		講義ノートを復習する。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教 科 書											
参 考 書											
授業の留意点・備考		今までの受動的な学習態度から脱却し、より充実した学習を行うために、自主的な学習態度を身に付け、積極的に疑問に思ったことは質問すること。									

科目名		内科学					担当教員		山下 昌洋			
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修
担当教員の実務経験			内科臨床と係った経験を活かし、地域リハビリテーションの実務に役立つ講義を行うことができる。									
授 業 概 要			各症候、疾病がどのようにして発生するかという内科的病態生理を基礎として、要点はプリント図表に入れ、講義の習得が容易となるように配慮する。									
到 達 目 標			①国家試験の過去問題（10年程度）を十分に理解し、トレーニングを行い、思考力を育てる。②教科書、講師からの資料を研習し、グループワークを行う場合には、積極的に参加し意見を発表する。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	呼吸器疾患（Ⅰ）				呼吸器の解剖と病理							
2	呼吸器疾患（Ⅱ） 閉塞性換気障害、拘束性換気障害				呼吸器の解剖、病理を復習し、代表的な疾患について学習する。 レポート（小テスト）							
3	循環器（Ⅰ）				循環器の解剖、病理を理解する。浮腫の診断ができる。							
4	循環器（Ⅱ）				虚血性心疾患、左心不全、右心不全を理解する。							
5	循環器（Ⅲ）				高血圧、末梢循環について学ぶ。レポート（小テスト）							
6	糖尿病				糖尿病とは、合併症、低血糖症状を理解する。							
7	消化器疾患				主な疾患について学ぶ。							
8	肝疾患				ウイルス肝炎、肝硬変症、門脈硬直症その他について学ぶ。 レポート（小テスト）							
9	内分泌				内分泌異常について学ぶ。							
10	膠原病				膠原病、自己免疫疾患などについて学ぶ。							
11	メタボリックとフレイル				メタボリックシンドローム、内臓脂肪と皮下脂肪、高齢者に見られるフレイル・サルコペニアについて学ぶ。レポート（小テスト）							
12	感染症				感染症、院内感染対策、標準予防法について学ぶ。							
13	老年症候群、廃用症候群				高齢者の特有な疾患の内部障害を理解し、リハビリの臨床に役立たせる。							
14	その他の内科疾患、腎不全など、貧血				主な疾患について学ぶ。レポート（小テスト）							
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			レポート（小テスト）を各テーマ毎に提出する。復習予習することで正確な解答を提出し、問題を解く思考力を育てる。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書			PT・OT国家試験 専門基礎分野 臨床医学 2021：医歯薬出版									
参 考 書			①病気がみえる vol.1～6、vol.8：メディックメディア ②クエスチョンバンクPT・OT国家試験問題解説2021：メディックメディア									
授業の留意点・備考			内科学は単なる記憶の繰り返しではなく、症状を分析し、病理・解剖学などの知識を元に診断する。思考力が必要であることを理解する。									

科目名	整形外科科学	担当教員	岩北 耕三
-----	--------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		整形外科領域の実務に携わった経験を活かし、整形外科領域の主な疾患における症状や検査、治療法について講義を行う。									
授 業 概 要		理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に整形外科科学の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。									
到 達 目 標		運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 代表的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。									

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・総論	整形外科の定義や領域を総合的に講義する。
2	上肢の疾患	上肢の疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
3	下肢の疾患①	下肢の疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
4	下肢の疾患②	下肢の疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
5	体幹の疾患	脊椎疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
6	末梢神経損傷	代表的な末梢神経障害の病態、診断、治療法について講義する。
7	外傷①	代表的な上肢の骨折の病態、診断、治療法について講義する。
8	外傷②	代表的な下肢の骨折の病態、診断、治療法について講義する。
9	外傷③	代表的な下肢の骨折/脱臼の病態、診断、治療法について講義する。
10	外傷④	スポーツ外傷・障害総論の概要について講義する。
11	リウマチ性疾患	炎症性疾患のリウマチについて病態、診断、治療法について講義する。
12	慢性関節疾患	退行性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
13	慢性関節疾患	退行性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
14	骨・軟部腫瘍/代謝性骨疾患他	骨・軟部腫瘍/代謝・内分泌性疾患の種類、病態、診断、治療法について講義する。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること
成績評価	☒ 定期試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 10 %） ☒ レポート（ 40 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教科書	病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第1版 メディックメディア
参考書	標準整形外科科学 第13版 標準理学療法科学・作業療法科学 専門基礎分野 整形外科科学 第4版
授業の留意点・備考	・授業を欠席しない。 ・積極的な授業態度を望む。 ・課題レポートの提出を課する。

科目名		神経内科学					担当教員		栗野 博子			
学科	理学療法学科		年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野		教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進				選択・必修		必修	
担当教員の実務経験			主に急性期から回復期における中枢疾患のリハビリテーションに関わった経験を活かし講義を行うことができる。									
授 業 概 要			神経内科学的疾患（特に脳梗塞や神経変性疾患など、成人の運動機能障害を生じる疾患を中心に）の概説を行う。									
到 達 目 標			代表的な神経疾患の病態と診断、治療について総合的に理解する。具体的には、神経系の構成を理解し、機能障害が発生した場合にどのような症状が現れるか理解する。その障害に対し有効な治療（根治的／対症療法的／予防的、リハビリテーション／薬剤／その他）について、総合的に理解する。それを基礎に、神経疾患治療におけるリハビリテーションの目標・役割について理解する。									
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	中枢神経系の解剖と機能				神経系の疾患を理解するために必要となる中枢神経の構造や機能、末梢神経などについて学習する							
2	神経学的診断と評価／神経学的検査法				神経疾患の診断や評価に用いられる検査方法などの概要を学習する							
3	神経症候学①				意識障害や運動麻痺、錐体路徴候について学習する							
4	神経症候学②				錐体外路徴候、不随意運動について学習する							
5	神経症候学③				感覚障害について学習する							
6	神経症候学④ ～高次脳機能障害～				失語症、構音障害、嚥下障害について学習する							
7	神経症候学⑤ ～高次脳機能障害～				失認、失行、記憶障害、注意障害、遂行機能障害について学習する							
8	脳血管障害①				脳出血、くも膜下出血、脳梗塞などの病態と分類などについて学習する							
9	脳血管障害②				脳血管障害の診断と治療、リハビリテーションの実際について学習する							
10	認知症／脳腫瘍／外傷性脳損傷				認知症、脳腫瘍、外傷性脳損傷の症状や分類、治療などについて学習する							
11	脊髄疾患				脊髄損傷を中心に学習する							
12	変性疾患、脱髄疾患/末梢神経障害				脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、パーキンソン病/末梢神経損傷、ギランバレー症候群などを中心に学習する							
13	筋疾患/小児神経疾患				筋ジストロフィーや脳性麻痺などを中心に学習する							
14	神経疾患に多い合併症				神経疾患に多い廃用、誤用症候群や合併症について学習する							
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容			講義の中で出てくるポイントについて、復習を各自でしっかり行い理解することが望まれる。									
成 績 評 価			☒ 定期試験（ 100 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題 （ ％） ☐ 発表 （ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書			標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版(医学書院)									
参 考 書			病気がみえるvol.7脳・神経 第2版(メディックメディア)									
授業の留意点・備考			国家試験出題の多い点については講義の中でも問題活用し進めていく。問題でわからないところなどを自分自身でも調べる習慣を身につけ努力すること。									

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		精神科病院での臨床経験を活かし、臨床場面での内容を踏まえ、症候・疾患・治療について講義を行う									
授 業 概 要		リハビリテーション実践の場で必要とされる精神症状や精神疾患を有する患者に必要な、基本的事項について学ぶ。									
到 達 目 標		①精神医学の概要を説明することができる ②精神障害の成因と分類について説明することができる ③精神機能の障害と精神症状について説明することができる ④精神疾患について説明することができる									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 精神医学とは			本講義のオリエンテーション、精神医学とは、精神障害に関わる概念、精神障害の成因、精神障害の分類について学ぶ							
2	精神機能の障害と精神症状①			精神機能の障害と精神症状、意識・知能とその障害を学ぶ							
3	精神機能の障害と精神症状②			性格・記憶・感情とその障害を学ぶ							
4	精神機能の障害と精神症状③			欲動および意志・自我意識・知覚・思考・病識とその障害を学ぶ							
5	統合失調症及びその関連障害①			統合失調症とは、統合失調症の疫学・成因ないし病態・精神症状の特徴を学ぶ							
6	統合失調症及びその関連障害②			統合失調症の病型、経過と予後、治療とリハビリテーションについて学ぶ							
7	気分（感情）障害①			気分障害とは、うつ病の疫学、うつ病の症状の特徴、うつ病の発症の機制について学ぶ							
8	気分（感情）障害②			うつ病の病型をめぐって、躁うつ病の疫学、躁うつ病の症状、躁うつ病の発症の機制、経過及び予後、経過、うつ病・躁うつ病の治療を学ぶ							
9	認知症とその特徴			定義と分類、基本症状と随伴症状、大脳皮質の変性疾患（アルツハイマー病、ピック病、レビー小体型認知症、血管性認知症）について学ぶ							
10	神経症性障害とその特徴			神経症性障害の概念、不安及び恐怖症・恐怖・強迫を中心とする神経症性障害、ストレス関連障害、解離性障害、身体表現性障害について学ぶ							
11	精神作用物質による精神および行動の障害			精神作用物質による障害の定義、アルコール関連精神障害、薬物依存による精神障害、治療と回復について学ぶ							
12	パーソナリティ障害 精神遅滞			成人のパーソナリティの障害、精神遅滞の概念、疫学、頻度の高い精神遅滞について学ぶ							
13	てんかん			定義と概念、疫学、てんかんの発作症状と精神疾患、てんかんにともなう精神障害、経過と予後、てんかんの治療について学ぶ							
14	生理的障害および身体的要因に関連した障害			摂食障害（神経性無食欲症・神経性大食症）、睡眠障害について学ぶ							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		広範囲に渡る講義であるため復習をその都度行うこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学（第4版）医学書院									
参 考 書		現代臨床精神医学（改訂第11版） 金原出版 精神障害の理解と精神科作業療法 第3版（中央法規）									
授業の留意点・備考											

科目名		小児科学					担当教員		田中 明/専任教員		
学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		小児科医の臨床経験を活かし、子どもの体の成長と機能の発達、健康状態の評価方法の基礎知識について講義を行う。また行政業務に携わった経験を活かし、社会福祉体系についても述べることができる。									
授 業 概 要		・子どもの出生から思春期にいたるまでの健康と発達を理解し、将来の社会人として最大限の能力を発揮できるように支援することを学ぶ。 ・子どもの体の生長と機能の発達の特徴を学び、その正常な生長と発達の障害の原因を理解する。如何にして子どもの健康状態を評価するかの基礎知識を得る。									
到 達 目 標		将来、医療に携わる専門職として不可欠な小児の生長と発達及び育児環境について社会体制を含め体系的な理解を得る。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	小児科学とは					小児におけるライフステージ毎の課題を学ぶ。					
2	成長と発達					発達法則性、反射の発達の変化および正常発達を学ぶ。					
3	診断と治療					治療・訓練に必要となる診察と検査の過程を学ぶ。					
4	新生児と未熟児					新生児および未熟児の現代の傾向と医学的評価方法を学ぶ。					
5	先天異常と遺伝病					先天異常の発生要因や、代表的な病気（ダウン症等）を学ぶ。					
6	神経・筋・骨格の疾患（1）					原因別の代表的な疾患（てんかん等）について学ぶ。					
7	神経・筋・骨格の疾患（2）					原因別の代表的な疾患（筋疾患、筋ジストロフィー等）について学ぶ。					
8	内分泌疾患					各種ホルモンの生理を理解し、小児の内分泌疾患を学習する。					
9	循環器疾患					循環器の生理を理解し、心機能障害（先天性・後天性）の臨床症状を学習する。					
10	呼吸器疾患					呼吸器の生理を理解し、呼吸機能の臨床症状や代表的疾患を学習する。					
11	耳鼻科的疾患					聴覚障害の代表的疾患について学ぶ。					
12	耳鼻科的疾患					聴覚障害の代表的検査、新生児聴覚スクリーニングについて学ぶ。					
13	代謝性疾患					代謝の生理を理解し、糖尿病の臨床症状や代表的疾患を学習する。					
14	小児科学トピックス					発達障害（ASD、LD、ADHD）の最新知見を学ぶ。					
15	まとめ					これまでの授業内容を復習し理解を深める					
準備学習（予習復習）の具体的な内容		特になし。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教 科 書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版（医学書院）									
参 考 書		特になし。									
授業の留意点・備考		担当教員により授業計画は前後する。									

科目名	リハビリテーション医学	担当教員	金澤知徳/専任教員
-----	-------------	------	-----------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医師、理学療法士、作業療法士としてリハビリテーションに携わってきた経験をもとに、リハビリテーション医学とは何か、疾患別のリハビリテーションについての講義を行う。									
授 業 概 要		リハビリテーション医学とは何か、成り立ちと今後について、さらに基礎となる学問体系を概説し、リハビリテーションで対象となる疾患に対する診断や治療の進め方を解説する。									
到 達 目 標		リハビリテーションの一連の流れ、概略、歴史について説明できる。 疾患別のリハビリテーションを説明できる。									

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
1	リハビリテーション医学とは何か	(金澤) リハビリテーション概論についての理解 (リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等)
2	リハビリテーション医学とは何か	(金澤) リハビリテーション概論についての理解 (リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等)
3	リハビリテーション医学とは何か	(金澤) リハビリテーション概論についての理解 (リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等)
4	リハビリテーション医学とは何か	(金澤) リハビリテーション概論についての理解 (リハビリテーションの理念や領域、チーム医療等)
5	脳卒中のリハビリテーション	(野仲) 疾患についての理解、病期別のリハビリテーション、具体的なアプローチ
6	パーキンソン症候群のリハビリテーション	(野仲) パーキンソン病とは、臨床症状、障害評価、治療とリハビリテーション
7	神経変性疾患、神経筋疾患のリハビリテーション	(野仲) 疾患についての理解、一般的治療と薬物療法、リハビリテーション治療の概要
8	脊髄損傷のリハビリテーション	(野仲) 脊髄損傷の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム
9	四肢切断のリハビリテーション 生活習慣病のリハビリテーション	(岩北) 四肢切断の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム 生活習慣病の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム
10	運動器疾患のリハビリテーション	(岩北) 運動器疾患の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム
11	関節リウマチのリハビリテーション	(野仲) 疾患についての理解、一般的治療の流れ、リハビリテーション治療の要点
12	脳性麻痺のリハビリテーション	(岩北) 脳性麻痺の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム
13	心筋梗塞のリハビリテーション	(岩北) 心筋梗塞の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム
14	呼吸器疾患のリハビリテーション	(岩北) 呼吸器疾患の症状、機能障害の評価、リハビリテーションプログラム
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習 (予習復習) の具体的な内容	教科書や配布資料をよく読み復習すること。
成績評価	☒ 定期試験 (100 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()
教科書	PT・OT・STを目指す人のためのリハビリテーション総論 第2版：診断と治療社
参考書	適宜資料を配布
授業の留意点・備考	特記なし

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進				選択・必修		必修		
担当教員の実務経験		救急医療現場やアメリカ心臓協会主催の1・2次救命方法のインストラクターと係わった経験を活かし、リハビリテーションにおける理学・作業療法実施時の急変や患者様の症状に対して対応してきた経験について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学び心肺蘇生・応急処置について学習する。また、心肺蘇生・応急処置の方法について実践・演習を行い学ぶ									
到 達 目 標		①緊急を要する病態や疾患・外傷の基礎的な知識と考え方を学び心肺蘇生・応急処置について説明できる。 1) 救急医療体制について説明できる。2) 症候群(意識障害、けいれん、失神、めまい、呼吸困難、胸痛、動機、急性肺障害・急性呼吸促進症候群、嘔気・嘔吐、頭痛、咽頭痛、腰背部痛、全身性炎症反応症候群)について説明できる。 ②心肺蘇生・応急処置の方法について説明でき、的確に実施できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	概要・救急医療体制1			救急医療体制(インホスピタル・プレホスピタル)							
2	概要・救急医療体制2			外傷医療、災害医療							
3	心電図1			不整脈(頻拍)、動悸							
4	心電図2			不整脈(徐脈)、失神、めまい							
5	症候群1			意識障害、血圧と心拍数の関係							
6	症候群2			急性脳卒中、頭痛、嘔吐・吐気、めまい							
7	症候群3			胸痛(急性冠症候群)、胸痛(その他)							
8	症候群4			腰背部痛、呼吸困難、咽頭痛、全身性炎症反応症候群							
9	応急手当			止血、創傷、熱傷、感電							
10	心肺蘇生1			成人BLS(1人法)							
11	心肺蘇生2			成人BLS(2人法)、AED、チームダイナミクス							
12	心肺蘇生3			小児・乳児BLS(1人法)							
13	心肺蘇生4			小児・乳児BLS(2人法)							
14	心肺蘇生5			窒息、補助呼吸、演習							
15	心肺蘇生6			BLS実技演習と実技テスト							
準備学習(予習復習)の具体的な内容											
成 績 評 価		☒ 定期試験(90%) ☒ 実技試験(10%) ☐ 小テスト(%) ☐ レポート(%) ☐ 課題(%) ☐ 発表(%) ☐ その他()									
教 科 書		特になし、講師が作成資料で実施する									
参 考 書											
授業の留意点・備考		実践の現場で活躍されている方に講師を依頼しているので、不明な点は積極的に質問して貴重な時間を有効活用すること。また、グループワークを行う場合は、ディスカッション等に積極的に参加すること。									

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進				選択・必修		必修		
担当教員の実務経験		救急病院から療養病院まで勤務経験があり、専門技師として病院内のスタッフにも研修を行っており、現在実際行われている、検査方法、画像について、症状、受傷経緯もふまえて、画像評価について説明を行うことができる。									
授業概要		臨床現場で行われている、X線写真 C T M R I 超音波画像の基本的な原理、画像の成り立ちを理解する。教科書の理解、パワーポイントでの各疾患の画像の見え方を理解する。解剖学的位置と画像上での位置関係を理解する。									
到達目標		各モダリティの画像の区別、見方を理解し、画像評価を行えるようになり、疾患の影響による機能的、能力的予後を予測しリハビリテーション計画に反映させられることを目標とする。									
授業計画											
回	テーマ				授業内容						
1	画像検査の実際				現在病院で行われている様々な検査について見識を高める						
2	放射線検査の基本				放射線の様々な検査方法、画像について理解をしていく						
3	画像解剖学 画像の見えかた				各種検査における、画像の基本的見方、左右、上下を理解する						
4	C T 検査 原理、画像の成り立ち				C T 検査の方法、時間、画像処理により様々な画像があることを学ぶ						
5	C T 検査 基本的画像				健常者の画像の見えかたを各部位ごとに学んでいく						
6	C T 検査 特徴的疾患画像				頭部の出血の変化、肺炎、イレウス、骨折の画像について学ぶ						
7	臨床とC T 画像				C T 検査が優先される症例、画像について特徴、理由を学ぶ						
8	M R I 検査 画像の基本				M R I の原理 磁場、電磁波 禁忌事項について学ぶ						
9	M R I 検査 基本的画像				頭部を中心に正常画像の見え方 T 1、T 2 の画像の違いを理解する						
10	M R I 検査 特徴的疾患画像				脳梗塞の画像の見え方、ヘルニア、筋、腱の症例を理解する						
11	臨床とMRI画像				検査時間、M R I で診断がつく症例について理解する						
12	頭部・脊髄の疾患				C T、M R I の画像を並べて見る事により症例の画像評価を行う						
13	脊椎・四肢の疾患				X線画像でリウマチ、骨折、術後変化、M R I ヘルニア、骨折を学ぶ						
14	胸部、腹部の疾患 質問対応				肺炎 イレウスなどの症例、画像についての質問対応を受けます						
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める						
準備学習（予習復習）の具体的な内容		教科書を読み、事前に画像を見ていてください。また当日のスライドでわかりにくかったところ講義後や次の講義の前に質問を行ってください。									
成績評価		☒ 定期試験 (90 %) ☐ 実技試験 (%) ☒ 小テスト (10 %) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 (%)									
教科書		PT・OTのための画像診断マニュアル：医学教育出版社 PT・OTのための画像のみかた 第2版：金原出版									
参考書											
授業の留意点・備考		シラバス、教科書にそって行いますが、臨床画像等はスライドを作成してきますので、気になる症例や、わかりにくいところはどんどん質問を行ってください。教科書にない部分は必ずノートを取るようしてください。（講義中にノートを取る箇所は指示を行い）									

科目名		栄養・薬理				担当教員		富永 志保			
-----	--	-------	--	--	--	------	--	-------	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進				選択・必修		必修		
担当教員の実務経験		管理栄養士として病院や老健で勤務した経験を活かし、リハビリテーションを実施していくうえで必要な栄養素等について講義できる。									
授業概要		臨床現場でPT・OT・STによる機能訓練を行う患者の多くが高齢者であり、リハビリを施行する患者は昨今低栄養素およびその可能性がある。ADL・QOLをUPさせるためには適切な栄養管理が必要である。 その知識を習得するための学習を行う。									
到達目標		栄養素の基礎、エネルギー産生栄養素等について学ぶことにより病気の発症・治療・食事の関係について理解できる。又、自分の食生活について振り返り、自己管理できるよう学ぶことが出来る。									
授業計画											
回	テーマ				授業内容						
1	知っておきたい栄養学の基礎				栄養学の基礎とエネルギー産生栄養素について学ぶ						
2	種類別に覚えておきたい栄養素の働き-1				人間の身体に不可欠な栄養素の種類と働きを学ぶ						
3	種類別に覚えておきたい栄養素の働き-2				人間の身体に不可欠な栄養素の種類と働きを学ぶ						
4	主な疾患の栄養療法				各疾患の栄養管理について学ぶ						
5	栄養関連事項～嗜好品の考え方～				今後生活していく上での自己管理と嗜好品についての考え方を学ぶ						
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		講義資料を復習する									
成績評価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教科書		講師の先生が資料を用意									
参考書		リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎（医歯薬出版） よくわかる栄養学の基本としくみ（秀和システム）									
授業の留意点・備考		わからないことを積極的に質問してほしい。 とろみ剤や流動食の試飲等予定しています。積極的に参加してください。									

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		薬局薬剤師としての経験を活かし、他のコメディカルが実務で活用しやすい実用的な知識について講義出来る									
授 業 概 要		生理学的な基礎知識を基盤に薬の特徴・臨床上の注意点について学習する									
到 達 目 標		生理学的な基礎的な事項を理解した上で薬学的な知識、薬の特徴・注意点を説明できる									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	薬理 ・中枢神経系など			中枢系に作用する薬剤について学ぶ							
2	薬理 ・消化器系・消毒液			胃腸に作用する薬剤、消毒液の違いについて学ぶ							
3	薬理 ・剤型、受容体、動態学			特徴的な剤型、基本的な受容体、血中濃度などの動態学の基礎を学ぶ							
4	薬理 ・抗生剤、抗アレルギー薬			抗生剤・抗菌薬の基礎、抗アレルギー薬の世代別の特徴について学ぶ							
5	薬理 ・ヘルペス、AD/MD、COPD、禁煙、嫌酒薬			生活習慣が密接に関わる薬について学習する。社会問題的な薬剤について触れる							
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		生化学的な知識、人体の働きについて教科書で学習しておく									
成 績 評 価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教 科 書		講師の先生が資料を用意									
参 考 書		わかりやすい薬理学 第3版 編集 安原 一									
授業の留意点・備考		毎回の小テストは必ず復習しておくこと									

科目名		栄養・薬理				担当教員		中村 繁良			
学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容		疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進				選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		大学卒業後は薬の研究し38才から薬剤師としての業務を始めた。 現在は、薬局に勤務しながら、地域包括ケア構築に向けて熊本県・熊本市の会議に参加し、他職種との連携を図っている。 また、熊本市主催のリハビリテーション協議会にも参加している。 現状何が必要か今後何を実施すべきかの講義をすることもできる。									
授業概要		患者がどういう薬を服用しているかということは、理学療法・作業療法・言語聴覚療法士にとっても大切なことから、いろいろな疾患の病態生理ならびに代表的な治療薬について学ぶ。									
到達目標		各疾患の病態生理を説明できる。 代表的な治療薬の名前を説明できる。漢方薬について学び、どの病態に効くか説明できる。 緩和医療について説明できる。 対象患者は高齢者が多いことから、お薬の注意事項を説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ				授 業 内 容						
1	循環器・血液系等について				心臓、血管、血液について学び、降圧薬やそれらに対する治療薬について学習する。						
2	漢方薬 外用剤の使い方について				生薬について学び、漢方薬について適切な使い方について学習する。軟膏、目薬、湿布など正しい使用方法、注意事項について学習する。						
3	代謝系・骨粗鬆症について				糖尿病、甲状腺疾患について学び、それに対する治療薬について学習する。						
4	緩和医療・高齢者への投薬について				緩和医療について学ぶ。それに対する薬について学習する。 高齢者は臓器が弱っているため、副作用が出やすいため、注意事項について学習する。						
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		講義ノート（パワーポイント）を復習する									
成績評価		☒ 定期試験（100％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☒ 発表（ ％） ☐ その他（ ）									
教科書		講師の先生が資料を用意									
参考書											
授業の留意点・備考											

科目名	臨床医学特論	担当教員	佐藤 健
-----	--------	------	------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・保健・福祉における様々な分野・領域での理学療法士経験を活かし、我が国における理学療法士の専門性について講義・演習を行うことができる。									
授業概要		・国家試験の専門基礎分野における出題内容の学習 ・国家試験に向けた学習方法の早期定着化 ・出題傾向の把握									
到達目標		・国家試験の専門基礎分野における出題内容を理解し『6割以上』正答できる ・国家試験に向けた学習方法を実践し計画的に進めることができる ・国家試験の専門分野における出題傾向を把握できる									

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション（学習のポイント）	国家試験に求められる学習への取り組み方について
2	国家試験専門基礎分野① （基礎医学・臨床医学）	国家試験専門分野の出題内容について
3	国家試験専門基礎分野② （基礎医学・臨床医学）	国家試験専門分野の出題内容について
4	国家試験専門基礎分野③ （基礎医学・臨床医学）	国家試験専門分野の出題内容について
5	国家試験専門基礎分野④ （基礎医学・臨床医学）	国家試験専門分野の出題内容について
6	国家試験専門基礎分野⑤ （基礎医学・臨床医学）	国家試験専門分野の出題内容について
7	国家試験専門基礎分野⑥ （基礎医学・臨床医学）	国家試験専門分野の出題内容について
8	国家試験専門基礎分野⑦ （基礎医学・臨床医学）	国家試験専門分野の出題内容について
9	国家試験専門基礎分野⑧ （基礎医学・臨床医学）	国家試験専門分野の出題内容について
10	国家試験専門基礎分野⑨ （基礎医学・臨床医学）	国家試験専門分野の出題内容について
11	国家試験専門基礎分野⑩ （基礎医学・臨床医学）	国家試験専門分野の出題内容について
12	国家試験専門基礎分野⑪ （基礎医学・臨床医学）	国家試験専門分野の出題内容について
13	国家試験専門基礎分野⑫ （基礎医学・臨床医学）	国家試験専門分野の出題内容について
14	国家試験専門基礎分野⑬ （基礎医学・臨床医学）	国家試験専門分野の出題内容について
15	まとめ	国家試験の受験にあたって

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	出題内容に関係する教科の知識をその都度復習しておくこと
成績評価	☒ 定期試験（80%） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（20%） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）
教科書	・理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2022 専門基礎分野 基礎医学，医歯薬出版 ・理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2022 専門基礎分野 臨床医学，医歯薬出版
参考書	1～3年生までの使用教科書を中心として必要に応じて各自で持参すること
授業の留意点・備考	・各自でしっかりと計画を立て、自宅での学習も含めて確実に進めていくこと ・使用教科書については、最新版（当該年度版）が出版されてからの購入となる ※あらためて指示

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	保健医療福祉とリハビリテーションの理念					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		10年以上の臨床経験を活かし、リハビリテーションの概要について指導することが出来る。									
授業概要		リハビリテーションの理念と基本原理及びその仕組みについて学習する。病気・障害・発達・心理等の基本的内容について教授する。その後、リハビリテーションの諸段階及びリハビリテーションの過程の概要を学習する。リハビリテーション概論で学習した内容を基盤として、各専門分野の理解が深まることを目的とする。									
到達目標		リハビリテーションの概念理解が出来る。病気・障害・発達の概念理解が出来る。人間活動の階層構造が理解出来る。国際生活機能分類の概略が理解出来る。神経心理学・臨床心理学とその内容について説明出来る。リハビリテーションの過程と諸段階での課題について説明出来る。医学的・教育的・職業的・社会的・高齢者の諸相について説明出来る。リハビリテーションのプロセスと手段について説明出来る。									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	オリエンテーション 障害者と社会			理学療法（士）及び作業療法（士）・言語聴覚（士）は法律にどのように規定されているのかを学ぶ (有働)							
2	リハビリテーションの定義と目的			リハビリテーションの言葉の由来や意味について学び、リハビリテーションの目的の変遷や社会制度の変革について学ぶ (有働)							
3	病気とは			病気の捉え方について、歴史的変遷について学ぶ (有働)							
4	障害とは			障害のモデル、特に国際障害分類（ICIDH）・国際生活機能分類（ICF）について学ぶ (有働)							
5	患者と障害者 慢性疾患モデル			患者と疾病行動や役割について学び、科学的根拠に基づく医療（EBM）やクリニカルパス、二次的障害や予防医学について学ぶ (有働)							
6	機能志向的アプローチ ヘルスケア・システムと包括的ケア			機能志向的アプローチについて学び、ヘルスケアの概要について学ぶ (有働)							
7	発達とは 人間活動			発達の定義を知り、発達研究や発達理論について概要を学ぶ (有働)							
8	リハビリテーションの過程 リハビリテーションの諸段階			評価とはなにか、評価学的重要性を学ぶ 医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション (平尾)							
9	チームアプローチ			リハ専門職の役割 (平尾)							
10	機能障害			疾病と外傷、先天異常及び精神障害 (平尾)							
11	地域リハビリテーションと高齢者対策			老人福祉法・老人保健法・介護保険制度 (平尾)							
12	リハビリテーションと心理1			心理アセスメントの概要について学ぶ (林)							
13	リハビリテーションと心理2			心理的機能とその障害について学ぶ (林)							
14	リハビリテーションと心理3			心理的適応の過程について学ぶ (林)							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書のすべてを授業では行いません。講義が終わった項目までは、当日、教科書を読み直し復習を充分に行うこと。									
成績評価		☒ 定期試験（80％） ☐ 実技試験（ ％） ☒ 小テスト（10％） ☒ レポート（10％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ％）									
教科書		入門 リハビリテーション概論 第7版 中村隆一 編 医歯薬出版 リハビリテーション総論 診断と治療社									
参考書		なし									
授業の留意点・備考		リハビリテーションを学習する上での基本となる科目であることを充分認識しておくこと。									

科目名	保健医療福祉論	担当教員	紫藤 千子・大石 宝予
-----	---------	------	-------------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	30	授業形態	講義
区分	専門基礎分野	教育内容	保健医療福祉とリハビリテーションの理念						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士として、長年にわたる福祉の現場での実践経験を踏まえて、より具体的な講義、GWなどの演習を行うことができる。身体障害領域で、あらゆる職種と関わってきた経験を活かして、多職種連携の重要性を問う講義を行う。										
-----------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

授業概要	本科目では、臨床の場面で様々な職種と関わることを踏まえ、多職種連携についてより深く学習する。作業療法士が臨床の場面において対象者と関わる上で必要な多職種連携の重要性を明確に理解することが本科目の重要な目的である。保健医療福祉論の中の福祉に関して、高齢者、障害者、児童の福祉について、年金や生活保護などの金銭的な面、就労支援、権利擁護の考え方、制度に関して学ぶ。										
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

到達目標	・作業療法と関連する職種とチーム医療の重要性について理解することができる。 ・クライアントを、生活する人としてとらえ、その暮らしに関わる様々な社会福祉の基礎知識を得て、社会福祉制度に関して理解を深め、今、社会福祉がどのような現状にあり、課題を抱えているのか知り、クライアントを支援するための知識を得る。										
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 障害者福祉①	障害者の状況、障害者福祉、障害者総合支援法
2	障害者福祉②	障害児支援、子育て支援、高齢者福祉
3	生活費①	年金制度、生活保護制度
4	生活費②	社会手当、生活困窮者自立支援法
5	生活費③	税、相続、家族法
6	就労支援	雇用保険、労災保険、就労支援
7	権利擁護①	虐待防止法
8	権利擁護②	成年後見制度、消費者保護
9	多職種連携とチーム医療	多職種連携が求められる背景・その目的を学習する。 多職種を理解し医療職の専門性について学習する。
10	リーダーシップ論とは	リーダーシップとメンバーシップを学習する。 意思決定能力と問題可決能力について学習する。
11	チーム・アプローチの基本構造	チームビルディング（組織化）の4場面と4要素について学習する。PDCAサイクルと目標と共有化、役割分担、リスクマネジメントについて学習する。
12	チーム・アプローチにおける課題と対応	多様性への対応（ファシリテーション・アサーション・コンフリクトマネジメント）について学習する。
13	多職種連携の実践（急性期）	急性期医療における多職種連携のポイントを学習する。
14	多職種連携の実践（在宅）	在宅医療における多職種連携のポイントを学習する。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める。

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	事前に教科書を読む。 教科書の予習・復習を十分に行うこと。
---------------------------	----------------------------------

成績評価	☒ 定期試験（80%） ☒ レポート（20%） ☒ 定期試験（80%） ☒ 発表（20%）
------	--

教科書	2020年度版社会保障制度指差しガイド いとう総研編 日総研 リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論 医歯薬出版株式会社
-----	---

参考書	適宜資料を配布
-----	---------

授業の留意点・備考	・グループワークを行う際は、積極的に参加すること。 ・授業中の私語はしないこと。 ・積極的に授業に参加し、自ら「考え」「発言」する習慣を付けること。
-----------	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・保健・福祉における様々な分野・領域での理学療法士経験を活かし、我が国における理学療法士の専門性について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		理学療法の定義や歴史、その背景となった倫理・哲学等の学習を通して、我が国のリハビリテーション医療における理学療法士の位置づけや役割、課題、展望について理解する。さらに、理学療法の対象や手段、流れについても触れ、専門性を最大限に活かしながらリハビリテーションチームの一員として他職種とどのように協働するべきかを考える。									
到 達 目 標		理学療法士を目指す学生として相応しい学習姿勢や考え方を養いながら、理学療法の業務に関わる総合的な知識を身につけ、リハビリテーション専門職としての社会的な位置づけとその役割がきちんと説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			理学療法士の養成に必要となるカリキュラム内容を確認し、学習姿勢のあり方について考える							
2	社会が求める理学療法士①			養成校および臨床現場での理学療法教育の現状について学ぶ							
3	社会が求める理学療法士②			社会が必要としている理学療法士像とその責任の重さを理解し、医療人としてのあり方について考える							
4	社会が求める理学療法士③			リハビリテーションに関わる専門職としての理学療法士の歴史的発展について学び、その本質的役割を理解する							
5	社会が求める理学療法士④			「理学療法士及び作業療法士法」から理学療法士の法的位置づけを理解し、その社会的役割を学ぶ							
6	社会が求める理学療法士⑤			理学療法士を取り巻く環境や現状について理解し、その使命的役割を学ぶ							
7	臨床現場における理学療法士①			疾病・症候・障害の関係性について学び、理学療法の対象は何かを考える							
8	臨床現場における理学療法士②			リハビリテーション医療における理学療法の主たる手段について学ぶ							
9	臨床現場における理学療法士③			リハビリテーション医療における理学療法の流れを学ぶ							
10	臨床現場における理学療法士④			リハビリテーションサービスにおける他職種協働を学び、チームアプローチについて考える							
11	臨床現場における理学療法士⑤			医療施設（機関）における理学療法士の位置づけや役割について考える							
12	臨床現場における理学療法士⑥			地域・福祉分野における理学療法士の位置づけや役割について考える							
13	理学療法士とリスクマネジメント①			医療事故について学び、理学療法を安全に実施するためにはどのようなことが求められるのか、リスクマネジメントを考える							
14	理学療法士とリスクマネジメント②			情報管理の在り方について学び、理学療法士としてどのような対応が求められるのかを考える							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		理学療法学テキストⅠ「理学療法概論（第4版）」（九州神稜文庫）									
参 考 書											
授業の留意点・備考		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。									

科目名	理学療法セミナーⅠ	担当教員	栗野 博子
-----	-----------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	理学療法士として主に総合病院の急性期から回復期医療に携わってきたことを活かし講義を行う。										
授業概要	理学療法士の職業内容や職域、職業観を学ぶだけでなく、医療人や社会人として必要な知識や社会性を学習していく。										
到達目標	・理学療法士を目指す学生として規則やマナーの重要性を理解することができる。 ・コミュニケーションの重要性を理解することができる。 ・理学療法士としてのプロフェッショナリズムの基礎を身につけることができる。										

授業計画

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本講義の授業概要の説明と導入/クラスの集いを通し仲間との連携を深める。
2	理学療法士とは	自分たちの目指す理学療法士の業務について学習する。
3	理学療法士になるための過程	理学療法士になるための4年間の具体的過程を学習する。
4	理学療法士の理想像	現時点でどのような理学療法士になりたいのかを考え自己目標を掲げる。
5	理学療法士に必要な資質①	理学療法士となるために今の自分たちに何が必要かグループワークを通し学習する。
6	理学療法士に必要な資質②	グループワークの内容を発表する。
7	医療人としての接遇とマナー①	医療現場における接遇について講義・演習を通し学習する。
8	医療人としての接遇とマナー②	医療現場における接遇について講義・演習を通し学習する。
9	レポート・課題の作成と調べ学習①	医療業務に必要となるツールや課題・レポートの作成について講義および演習を通して学習する。
10	レポート・課題の作成と調べ学習②	課題遂行に必要な学習方法について課題や課題演習を通してグループ学習する。
11	レポート・課題の作成と調べ学習③	グループ課題について学習内容の発表を通し学習する。
12	基本動作の介助方法①	起居動作についての介助方法を講義・演習を通し学習する。
13	基本動作の介助方法②	歩行についての介助方法を講義・演習を通し学習する。
14	基本動作の介助方法③	車椅子についての介助方法を講義・演習を通し学習する。
15	基本動作の介助方法④	移乗動作についての介助方法を講義・演習を通し学習する。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	見学実習について①	実習の手引きを用い、実習に向けて必要な態度・知識・技術を講義する。
17	見学実習について②	実習の手引きを用い、実習に向けて必要な態度・知識・技術を講義する。
18	見学実習について③	実習の手引きを用い、実習に向けて必要な態度・知識・技術を講義する。
19	見学実習について④	実習の手引きを用い、実習に向けて必要な態度・知識・技術を講義する。
20	見学実習について⑤	実習前の準備（実習生プロフィール、服装、証明写真、書類など）について確認し学習する。
21	見学実習について⑥	実習後の動き（書類、お礼状のマナーなど）について確認し学習する。
22	宿泊研修オリエンテーション	阿蘇宿泊研修オリエンテーションを行い、医療・福祉に携わるセラピストを目指す学生としての自覚を養うとともに協調性の意義を学習する。
23	援助的コミュニケーション①	阿蘇宿泊研修において、接遇およびコミュニケーション法を学習する。
24	援助的コミュニケーション②	阿蘇宿泊研修において、接遇およびコミュニケーション法を学習する。
25	援助的コミュニケーション③	阿蘇宿泊研修において、接遇およびコミュニケーション法を学習する。
26	宿泊研修振り返り	阿蘇宿泊研修を振り返り、「私が目指すPT像」レポート作成する。
27	見学実習の具体的準備①	実習直前のオリエンテーション
28	見学実習の具体的準備②	書類作成と確認
29	見学実習の具体的準備③	実習中の注意事項
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		授業の予習・復習を十分に行うこと。
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 40 %） ☒ 課題（ 30 %） ☒ 発表（ 30 %） ☐ その他（ ）
教 科 書		なし
参 考 書		適宜資料を配布
授業の留意点・備考		積極的に授業に参加し、自ら「考え」「発言」する習慣を付けること。 実習などに関わる内容も多いため必ず必要事項をメモをとる習慣と忘れ物が無いように注意する。 演習時は福祉用具などの準備物も多いため、クラス全体で協力して準備・片付けを行う。

科目名	理学療法セミナーⅡ	担当教員	栗野 博子
-----	-----------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	理学療法士として主に総合病院の急性期から回復期医療に携わってきたことを活かし講義を行う。
-----------	--

授 業 概 要	理学療法士に必要な不可欠となる知識・技術の中で、1年次に学ぶ専門基礎分野の内容をより臨床的につなげた学習を行うことにより、次学年の学習や国家試験に対応できる学習能力を身につける。
---------	---

到達目標	・1年次に学ぶ専門基礎分野（特に解剖学・運動学・生理学）などについて理解を深める。 ・国家試験の問題を解き、調べ学習を行い、調べた内容を発表し理解を深める。 ・解剖学や運動学について実際に標本や体表に触れる演習を通し包括的に理解を深める。
------	---

授 業 計 画

回	テーマ	授 業 内 容
1	国家試験について	国家試験問題に触れる。学習方法についてのオリエンテーション
2	解剖学①	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
3	解剖学②	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
4	解剖学③	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
5	解剖学④	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
6	運動学①	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
7	運動学②	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
8	運動学③	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
9	運動学④	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
10	生理学①	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
11	生理学②	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
12	生理学③	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
13	生理学④	問題を解く、調査、シェア、アウトプット、要点を講義、確認問題を解くの流れで、復習を行い専門基礎分野の理解を深める。
14	骨と関節運動	模型などを用いた学習を行う。
15	骨と関節運動	模型などを用いた学習を行う。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	筋および軟部組織	模型などを用いた学習を行う。
17	筋および軟部組織	模型などを用いた学習を行う。
18	神経	模型などを用いた学習を行う。
19	神経	模型などを用いた学習を行う。
20	内臓	模型などを用いた学習を行う。
21	内臓	模型などを用いた学習を行う。
22	確認テスト	これまで学習してきた内容についての理解度を確認し、今後の課題についてを見出す。
23	他学年との交流会	先輩方から学習についてや実習、臨床現場について、実技など様々な点を交流を通し学ぶ。※新型コロナウイルス感染拡大状況により内容変更する。
24	交流会を通し学んだこと（発表と課題）	学年を越えて学んだ内容についてグループにて再確認し共有する。※新型コロナウイルス感染拡大状況により内容変更する。
25	症例課題：運動器疾患	臨床でよく目にする疾患について調べ学習を行い、病態を理解する。
26	症例課題：運動器疾患	実技を通し、患者様への接し方や触れ方のポイントを学ぶ。
27	症例課題：中枢疾患	臨床でよく目にする疾患について調べ学習を行い、病態を理解する。
28	症例課題：中枢疾患	実技を通し、患者様への接し方や触れ方のポイントを学ぶ。
29	症例課題：その他疾患	臨床でよく目にする疾患について学び、患者様への接し方や触れ方のポイントを学ぶ。
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		授業の予習・復習を十分に行うこと。
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 40 %） ☒ 課題（ 50 %） ☒ 発表（ 10 %） ☐ その他（ ）
教 科 書		なし
参 考 書		適宜資料を配布
授業の留意点・備考		調べ学習は自ら積極的に行い、グループで行うシェア学習では解らないことを素直に発信するとともに、解らないことを全員で解決するよう協力して授業に取り組むこと。

科目名	理学療法セミナーⅢ	担当教員	岩北 耕三
-----	-----------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・保健・福祉における様々な分野・領域での理学療法士経験を活かし、我が国における理学療法士の専門性について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		当該学年で学習する検査・測定や次学年で行なう理学療法研究に焦点を当て、学生間での積極的なディスカッションや意思疎通を通して内容に対する理解を深める。									
到 達 目 標		・効率的な『測定』技術の体得と治療に繋がる『検査』視点を身につける。 ・理学療法研究における流れを学ぶ									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			当該学年で求められる学習への取り組み姿勢について（2年生としての心得）							
2	検査・測定実習について①			当該学年で予定されている検査・測定実習に必要な専門用語や内容を理解し、実施の流れについて理解を深める							
3	検査・測定実習について②			当該学年で予定されている検査・測定実習に必要な専門用語や内容を理解し、実施の流れについて理解を深める							
4	検査・測定演習① ～形態・測定～			理学療法評価法の講義内容の振り返りと合わせて、当該学年で予定されている検査・測定実習の内容（形態・測定）について理解を深める							
5	検査・測定演習② ～形態・測定～			理学療法評価法の講義内容の振り返りと合わせて、当該学年で予定されている検査・測定実習の内容（形態・測定）について理解を深める							
6	検査・測定演習③ ～ROM検査（上肢）～			理学療法評価法の講義内容の振り返りと合わせて、当該学年で予定されている検査・測定実習の内容（ROM検査～上肢～）について理解を深める							
7	検査・測定演習④ ～ROM検査（上肢）～			理学療法評価法の講義内容の振り返りと合わせて、当該学年で予定されている検査・測定実習の内容（ROM検査～上肢～）について理解を深める							
8	検査・測定演習⑤ ～ROM検査（下肢）～			理学療法評価法の講義内容の振り返りと合わせて、当該学年で予定されている検査・測定実習の内容（ROM検査～下肢～）について理解を深める							
9	検査・測定演習⑥ ～ROM検査（下肢）～			理学療法評価法の講義内容の振り返りと合わせて、当該学年で予定されている検査・測定実習の内容（ROM検査～下肢～）について理解を深める							
10	検査・測定演習⑦ ～反射・感覚検査～			理学療法評価法の講義内容の振り返りと合わせて、当該学年で予定されている検査・測定実習の内容（反射・感覚検査）について理解を深める							
11	検査・測定演習⑧ ～反射・感覚検査～			理学療法評価法の講義内容の振り返りと合わせて、当該学年で予定されている検査・測定実習の内容（反射・感覚検査）について理解を深める							
12	3年生 理学療法研究計画発表会			理学療法研究における流れを学ぶ							
13	3年生 理学療法研究計画発表会			理学療法研究における流れを学ぶ							
14	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書等を用いて事前に確認し、受講後は振り返りを必ず実施すること。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 50 %） ☒ 実技試験（ 50 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書		特になし									
参 考 書		・理学療法評価学（金原出版） ・ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）									
授業の留意点・備考		常に問題解決的意識を持って臨み、特にグループでの学習活動に際しては、能動的かつ積極的な学習姿勢で相互的理解に努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。必要に応じて現場に即した身だしなみ（実習帽及び実習着着用、整髪、貴金属類の装着不可等）で受講すること。									

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・保健・福祉における様々な分野・領域での理学療法士経験を活かし、我が国における理学療法士の専門性について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		当該学年（3年次）に行なわれる実習や研究に焦点を当て、学生間での積極的なディスカッションや意思疎通を通して内容に対する理解を深める。									
到 達 目 標		目の前の課題的事象に対して能動的に働きかけ、気づき、考え、行動する姿勢づくりと対象者意識を養う。取り組みを経て、臨床場面で求められる総合的視点を養う。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			当該学年で求められる学習への取り組み姿勢について（3年生としての心得）							
2	理学療法研究活動①			グループ検討（結果に対する文献的考察）							
3	理学療法研究活動②			グループ検討（結果に対する文献的考察）							
4	理学療法研究活動③			グループ検討（結果に対する文献的考察）							
5	理学療法研究活動④			グループ検討（結果に対する文献的考察）							
6	理学療法研究活動⑤			グループ検討（結果に対する文献的考察）							
7	理学療法研究活動⑥			グループ検討（結果に対する文献的考察）							
8	理学療法評価実習に向けた演習①			グループ演習							
9	理学療法評価実習に向けた演習②			グループ演習							
10	理学療法評価実習に向けた演習③			グループ演習							
11	理学療法評価実習に向けた演習④			グループ演習							
12	理学療法評価実習に向けた演習⑤			グループ演習							
13	理学療法評価実習に向けた演習⑥			グループ演習							
14	理学療法評価実習に向けた演習⑦			グループ演習							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		①理学療法研究に必要となる統計処理や文献的考察について、②短期実習（評価実習）に必要となる「理学療法評価」の流れについて学習しておく									
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 100 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		なし									
参 考 書		必要な教科書等を準備すること									
授業の留意点・備考		班員各自が積極的なディスカッションを心がけ、終始、協力的、かつ能動的な姿勢で臨むこと。									

科目名	理学療法総論演習Ⅲ	担当教員	佐藤 健
-----	-----------	------	------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療・保健・福祉における様々な分野・領域での理学療法士経験を活かし、我が国における理学療法士の専門性について講義・演習を行うことができる。									
授業概要		・国家試験の専門分野における出題内容の学習 ・国家試験に向けた学習方法の早期定着化 ・出題傾向の把握									
到達目標		・国家試験の専門分野における出題内容を理解し『6割以上』正答できる ・国家試験に向けた学習方法を実践し計画的に進めること実践できる ・国家試験の専門分野における出題傾向を把握できる									

授業計画

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション（学習のポイント）	国家試験に求められる学習への取り組み方について
2	国家試験専門分野① （基礎PT学 / 障害別治療学）	国家試験専門分野の出題内容について
3	国家試験専門分野② （基礎PT学 / 障害別治療学）	国家試験専門分野の出題内容について
4	国家試験専門分野③ （基礎PT学 / 障害別治療学）	国家試験専門分野の出題内容について
5	国家試験専門分野④ （基礎PT学 / 障害別治療学）	国家試験専門分野の出題内容について
6	国家試験専門分野⑤ （基礎PT学 / 障害別治療学）	国家試験専門分野の出題内容について
7	国家試験専門分野⑥ （基礎PT学 / 障害別治療学）	国家試験専門分野の出題内容について
8	国家試験専門分野⑦ （基礎PT学 / 障害別治療学）	国家試験専門分野の出題内容について
9	国家試験専門分野⑧ （基礎PT学 / 障害別治療学）	国家試験専門分野の出題内容について
10	国家試験専門分野⑨ （基礎PT学 / 障害別治療学）	国家試験専門分野の出題内容について
11	国家試験専門分野⑩ （基礎PT学 / 障害別治療学）	国家試験専門分野の出題内容について
12	国家試験専門分野⑪ （基礎PT学 / 障害別治療学）	国家試験専門分野の出題内容について
13	国家試験専門分野⑫ （基礎PT学 / 障害別治療学）	国家試験専門分野の出題内容について
14	国家試験専門分野⑬ （基礎PT学 / 障害別治療学）	国家試験専門分野の出題内容について
15	まとめ	国家試験の受験にあたって

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	出題内容に関する教科の知識をその都度復習しておくこと
成績評価	☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 20 %） ☒ 発表（ %） ☐ その他（ %）
教科書	・理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2022 基礎PT学，医歯薬出版 ・理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント2022 障害別PT治療学，医歯薬出版
参考書	1～3年生までの使用教科書を中心として必要に応じて各自で持参すること
授業の留意点・備考	・各自でしっかりと計画を立て，自宅での学習も含めて確実に進めていくこと ・使用教科書については，最新版（当該年度版）が出版されてからの購入となる ※あらためて指示

科目名	機能障害学	担当教員	佐藤 健
-----	-------	------	------

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		病院やクリニックといった医療機関に身を置いて様々な機能障害を有する症例の理学療法に従事した経験を活かし、身体器官における機能的諸問題について講義を行うことができる。									
授 業 概 要		理学療法の主な治療対象である身体器官の機能的諸問題について学び、様々な器官の損傷によってもたらされる身体変化（治癒過程とイベントを含む）に対して求められる理学療法士としての関わり方について学ぶ。									
到 達 目 標		ヒトのからだの構造的特徴と生理的機能を理解し、身体器官における機能的諸問題について病態及び発生メカニズムに関する基本的概要を説明することができる。									

圖 計 業 投

回	テーマ	授 業 内 容
1	機能障害とは	症候と障害の違いについて学習し、機能障害とは何かを考えるとともにICD・ICIDH・ICFなどの国際的分類を理解する
2	炎症について①	炎症の定義と肉眼的特徴を学習し、急性及び慢性炎症について理解する
3	炎症について②	細胞死について学習し、炎症における組織変化（肉眼的特徴の発生）を理解する
4	創傷とその治癒過程	創傷の定義と分類、熱傷における重症度分類と5の法則・9の法則、褥瘡の定義と重症度分類（DESIGN）の学習を通して創傷の治癒過程とイベントを理解する
5	骨折とその治癒過程①	骨折の定義について学習し、様々な骨折と走行形態を理解する
6	骨折とその治癒過程②	骨折の全身症候と局所症候を学習し、骨折の治癒過程とイベントを理解する
7	靱帯損傷とその治癒過程	靱帯損傷の定義、急性外傷と慢性外傷について学習し、靱帯損傷の治癒過程とイベントを理解する
8	腱損傷とその治癒過程	腱損傷の定義、腱断裂と腱炎について学習し、腱損傷の治癒過程とイベントを理解する
9	筋損傷とその治癒過程①	筋損傷の定義について学習し、様々な損傷とその特徴（外傷・一般・虚血・その他）を理解する
10	筋損傷とその治癒過程②	筋損傷の指標や筋損傷後にみられる変化について学習し、筋損傷の治癒過程とイベントを理解する
11	末梢神経損傷とその治癒過程	ニューロパシー、さらには末梢神経損傷の分類について学習し、代表的な骨格筋麻痺とSD曲線の特徴を踏まえてその回復過程とイベントを理解する
12	運動麻痺と筋トヌス異常	運動麻痺・筋トヌス異常（亢進・低下）の定義について学習し、痙縮と固縮の違い、中枢神経性麻痺の分類や回復の特徴を理解する
13	意識障害について	意識障害の定義やその分類（量的障害と質的障害）と特徴等を学習し、その評価法（JCSとGCS）について理解する
14	高次脳機能障害について	高次脳機能障害の定義について学習し、代表的な症候（失行・失認・失語）について理解する
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。
成績評価	☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（ 20 %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）
教科書	・『機能障害科学入門』千住秀明（監）神稜文庫
参考書	
授業の留意点・備考	単なる暗記ではなく、臨床実習や資格取得後の実務における治療対象であることを認識し、理解に繋がるイメージづくりに努め、能動的かつ積極的な学習姿勢で臨むこと。

科目名	臨床動作分析学	担当教員	栗野 博子
-----	---------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
----	--------	----	---	-----	----	-----	---	----	----	------	-------

区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学	選択・必修	必修
----	------	------	---------	-------	----

担当教員の実務経験	理学療法士として多くの症例のリハビリテーションを経験した事を活かし、動作分析の講義・演習を行う。
-----------	--

授 業 概 要	・ヒトが動くためのメカニズムを学び、異常動作を引き起こす原因を究明するための臨床評価を学び、逸脱動作とその代償動作を、動作分析を実践する中で導き出し考察する。 ・症例の動画より動作分析を実践し、動作分析症例検討会の中で専門用語を用いた表現や分析結果の解釈を共通にして全員で理解を深める。
---------	---

到達目標	・動作のメカニズムを理解する。 ・正常動作パターンを理解し、動作を阻害する逸脱動作や代償動作に気付くことができる。 ・代表的異常動作のメカニズムを説明できる。
------	---

授 業 計 画

回	テーマ	授業内容
---	-----	------

1	動作分析学総論	動作分析の目的、手順、基礎用語、動作分析の着眼点、動作のメカニズム、逸脱運動、代償運動
---	---------	---

2	姿勢制御のバイオメカニクス	基本動作の姿勢制御、静止姿勢のバイオメカニズム、アライメントの変化と身体重心の制御、身体重心を移動させるためのバイオメカニクス
---	---------------	---

3	姿勢アライメントの評価	姿勢アライメントとその評価
---	-------------	---------------

4	姿勢アライメントの評価	実技：姿勢アライメントの評価
---	-------------	----------------

5	動作計測の実際	三次元動作解析装置の活用と方法
---	---------	-----------------

6	動作計測の実際	三次元動作解析装置の活用と方法
---	---------	-----------------

7	寝返り・起き上がり動作	寝返り動作の概要、メカニズム
---	-------------	----------------

8	寝返り・起き上がり動作	目視による動作分析
---	-------------	-----------

9	寝返り・起き上がり動作	動作メカニズムの評価
---	-------------	------------

10	起立・着座	起立・着座動作動作の概要、メカニズム
----	-------	--------------------

11	起立・着座	目視による動作分析
----	-------	-----------

12	起立・着座	動作メカニズムの評価
----	-------	------------

13	正常歩行	歩行の運動パターンについての基礎再確認
----	------	---------------------

14	歩行分析の実際	歩行中の重心の観方と歩行観察のポイント
----	---------	---------------------

15	異常歩行～運動器疾患	運動器疾患における逸脱・代償動作
----	------------	------------------

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	異常歩行～運動器疾患	運動器疾患における逸脱・代償動作
17	異常歩行～神経疾患	神経疾患における逸脱・代償動作
18	異常歩行～神経疾患	神経疾患における逸脱・代償動作
19	異常動作分析（症例課題）	演習：異常動作分析
20	異常動作分析（症例課題）	演習：異常動作分析
21	異常動作分析（症例課題）	演習：異常動作分析
22	異常動作分析（症例課題）	演習：異常動作分析
23	臨床動作分析発表会	症例課題について学習した内容の発表を通し知識の共有を図る
24	臨床動作分析発表会	症例課題について学習した内容の発表を通し知識の共有を図る
25	臨床動作分析発表会	症例課題について学習した内容の発表を通し知識の共有を図る
26	臨床動作分析発表会	症例課題について学習した内容の発表を通し知識の共有を図る
27	その他の異常歩行	臨床現場でよく目にする異常動作について学ぶ
28	その他の異常歩行	臨床現場でよく目にする異常動作について学ぶ
29	義肢装具と歩行	義肢装具の有無により変化する歩行について学ぶ
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習(予習復習)の具体的な内容		動作分析には、観察力が必要であり日頃から観る練習をしておくこと
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 70 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（ 10 %） ☒ その他（ ）
教 科 書		・観察による歩行分析 ・動作分析臨床活用講座 ・実践!動作分析 第2版
参 考 書		・臨床実践 動きのとらえかた ・姿勢アセスメント ・The Center of the Body ・歩行分析ワークブック ・基礎運動学
授業の留意点・備考		・動作分析を行うために、準備物としてパソコン、USB、動画が撮影できるもの（携帯可※情報流出は絶対しないように）を使用することがある（事前に連絡する）。 ・姿勢アライメント評価を行う際は軽装の準備（Tシャツ・短パン等）を着用のこと。

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		専門分野における数々の学会発表ならびに大学院での研究の経験に基づいて講義を実施できる。									
授 業 概 要		・理学療法における研究の意義について学ぶ ・研究に際して必要となる基本的な知識を学び、具体的な計画書立案を経験する									
到 達 目 標		・理学療法分野に関係する何気ない疑問から発展させて研究テーマを決定し、実践可能となる研究計画の立案と書式を作成することができる									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション 研究の意義			研究の必要性、研究の構成要素、研究の手順							
2	研究課題の見つけ方			現状分析、研究課題の選択							
3	文献検索			文献検索の方法、コンピュータを用いた検索、英文抄読							
4	研究課題の展開			研究タイプ、研究の限界、研究計画書							
5	研究計画書作成① タイトル・はじめに			研究テーマの決定、疑問・課題の抽出							
6	研究計画書作成② 目的			研究テーマについて、その疑問にどの様に答えていくのか具体的に検討							
7	研究計画書作成③ 研究意義			決定した研究テーマについて、研究の意義を検討							
8	研究計画書作成④ 対象・倫理的配慮			研究対象基準の決定、倫理的配慮とは何か							
9	研究計画書作成⑤ 方法			研究方法の検討							
10	研究計画書作成⑥ 予測される結果と考察			研究結果の予測と文献的考察							
11	予備実験①			研究計画に基づいて実際に実験し、方法を検討する。							
12	予備実験②			研究計画に基づいた実験方法の可否を具体的検討。必要があれば計画の見直しを行う							
13	予備実験③			研究計画に基づいた実験方法を最終的に決定し、研究計画発表会に向けた準備を実施							
14	研究計画発表会（前期末考査）			研究計画を発表し、他グループの研究も参考にしながら意見を聴取する。							
15	研究計画発表会（前期末考査）			研究計画を発表し、他グループの研究も参考にしながら意見を聴取する。							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		研究の材料となる疑問や課題は、日常的に意識しておく必要がある。常にメモを携帯しアイディアが浮かんだときにメモする習慣が必要。									
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（ 100 %） ☐ その他（ %）									
教 科 書		はじめての研究法：神稜文庫									
参 考 書											
授業の留意点・備考		本講義はグループワークが中心となる。よって、全員が協力して遂行していくこと。									

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習
区分	専門分野	教育内容	基礎理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		理学療法の学術分野における学会発表ならびに大学院での研究経験に基づいて講義を実施する。									
授業概要		・グループ活動を通して、立案した研究計画に従いながら結果を導くまでの一連の過程を経験する。 ・導き出した結果に対して根拠のある意味づけ（考察）を図り、第三者に説明することを経験する。									
到達目標		・立案した計画に沿って研究を行い、必要な統計手法を用いて結果を導くことができる。 ・先行研究や関連する分野の文献等を用いて、結果に対する根拠のある意味づけ（考察）ができる。 ・研究の取り組みならびに結果・考察を分かりやすく、かつ簡潔に説明することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			研究データの管理方法について学び演習する。 データ記録用紙の作成のポイントについて学び演習する。							
2	グループ活動①			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。							
3	グループ活動②			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。							
4	グループ活動③			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。							
5	グループ活動④			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。							
6	グループ活動⑤			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。							
7	グループ活動⑥			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。							
8	グループ活動⑦			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。							
9	グループ活動⑧			グループ活動を通して実際に実験を行いデータの計測法を学び演習する。							
10	抄録の作成①			抄録の作成法について学ぶ。							
11	抄録の作成②			抄録の作成法について学び演習する。							
12	スライドの作成①			発表スライドの作成法について学ぶ。							
13	スライドの作成②			発表スライドの作成法について学び演習する。							
14	研究発表①			理学療法研究発表会を通して研究の重要性を学ぶ。							
15	研究発表②			理学療法研究発表会を通して研究の重要性を学ぶ。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		消耗品の在庫確認や、被験者の予定管理を計画的に準備すること。									
成績評価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（ 100 %） ☐ その他（ ）									
教科書		はじめての研究法 第2版 （神陵文庫）									
参考書		なし									
授業の留意点・備考		本講義はグループワークが中心となる。よって、全員が協力して遂行していくこと。									

科目名	理学療法評価学Ⅰ	担当教員	緒方茂・山下俊
-----	----------	------	---------

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法評価学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	
授業概要	理学療法評価は対象者の身体的な把握する上で、治療方針を決定するために重要な位置付けである。総論から各検査について講義と演習にて検査の意義、目的を学習し、学生同士で練習し技術の向上を図る。理学療法評価学Ⅰでは、総論、形態測定、関節可動域検査、反射検査、感覚検査、疼痛検査、協調性検査について学習する。
到達目標	各検査測定の意義と目的を理解し、正確に検査が実施できる。検査結果が何を意味しているか、また他の検査との関連性を説明することができる。

授業計画		
回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	オリエンテーションにてシラバスを使用し授業内容の説明する。今後の授業の方向性や進め方を理解する。
2	評価学総論①	評価の目的、過程、およびICIDH、ICFに基いた評価について学習する。
3	評価学総論②	評価の種類、記録の取り方、医療情報の種類と情報収集の取り方、検査尺度と定性定量について学習する。
4	形態測定①	形態測定の意義目的および形態測定の種類、実施時の注意事項を学習し、演習にて身長体重の測定を行い、栄養状態と体格指数を理解する。
5	形態測定②	四肢長の種類と計測点を学習し、演習にてメジャーの使い方と実際の計り方を演習する。
6	形態測定③	四肢周径の種類と計測点を学習し、演習にてメジャーの使い方と実際の計り方を演習する。
7	関節可動域測定①	関節可動域測定の定義と目的、身体の基本的肢位と基本的運度方向、測定上の注意事項を学習し、測定器具の取扱いを演習する。
8	関節可動域測定②	関節可動域測定における肩甲帯の機能解剖を確認し、肩甲骨の動きとその計測法を演習する。
9	関節可動域測定③	関節可動域測定における肩関節、肘関節の機能解剖を確認しその計測法を演習する。
10	関節可動域測定④	関節可動域測定における前腕、手関節の機能解剖を確認しその計測法を演習する。
11	関節可動域測定⑤	関節可動域測定における股関節の機能解剖を確認しその計測法を演習する。
12	関節可動域測定⑥	関節可動域測定における膝関節、足関節の機能解剖を確認しその計測法を演習する。
13	関節可動域測定⑦	関節可動域測定における頸部、体幹の機能解剖を確認しその計測法を演習する。
14	関節可動域測定⑧	関節可動域測定のまとめで総合的な復習を行い、関節可動域測定の全体的な方法と注意点の理解を深める。
15	反射検査①	反射検査の定義と反射弓および反射の種類、反射出現の生理学的機序を演習を交えて学習する。

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	反射検査②	深部腱反射での検査器具の取り扱いと各反射検査の方法、検査結果に対する意義を学習し演習する。
17	反射検査③	表在反射での検査器具の取り扱いと各反射検査の方法、検査結果に対する意義を学習し演習する。
18	反射検査④	病的反射での検査器具の説明と各反射検査の方法、検査結果に対する意義を学習し演習する。
19	感覚検査①	感覚検査の意義と目的を理解し、知覚の分類、感覚の伝導路(解剖・生理)を学習する。
20	感覚検査②	表在感覚検査で使用する検査器具の取り扱いと感覚入力の方法を学習し、疾患に応じた検査方法を演習する。
21	感覚検査③	深部感覚検査で使用する検査器具の取り扱いと感覚入力の方法を学習し、疾患に応じた検査方法を演習する。
22	感覚検査④	複合感覚検査で使用する検査器具の取り扱いと感覚入力の方法を学習し、疾患に応じた検査方法を演習する。
23	疼痛検査①	痛みの種類についての分類、受容器や伝導路、検査上の注意点について学習する。
24	疼痛検査②	各種痛みの評価ツールであるVAS、NRS等を演習を通して学習する。
25	疼痛検査③	疼痛検査の手順を学習し、問診から触診、運動検査など痛みの評価手順について演習する。
26	協調性検査①	協調性検査の意義目的を理解し、運動失調の分類及び原因疾患と、小脳性失調と脊髄性失調の鑑別について学習する。
27	協調性検査②	協調性検査の代表的な指鼻試験・鼻指鼻試験・膝踵試験等を、検査測定実施時の注意事項を交え学習し演習する。
28	総合練習	各検査法の導入から問診への進め方を学習し、演習を通して理解を深める。
29	総合練習	各検査法の導入から問診への進め方を学習し、演習を通して理解を深める。
30	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		検査の意義を速やかに理解できるよう、解剖学、生理学を見直して臨むこと。学生同士で練習し復習すること。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 60 %） ☒ 実技試験（ 40 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		理学療法評価学（金原出版） ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）
参 考 書		なし
授業の留意点・備考		実技のデモンストレーションを行う際は、積極的に被験者になること。

科目名	理学療法評価学Ⅱ	担当教員	山本 英夫
-----	----------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法評価学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし、理学療法評価の各種検査測定について講義、演習を行うことができる。										
授業概要	理学療法評価は対象者の身体的なを把握する上で、治療方針を決定するために重要な位置付けである。総論から各検査について講義と演習にて検査の意義、目的を学習し、学生同士で練習し技術の向上を図る。理学療法評価学Ⅱでは、徒手筋力テスト、片麻痺機能検査、筋緊張検査、脳神経検査、高次脳機能検査について学習する。										
到達目標	各検査測定の意義と目的を理解し、正確に検査が実施できる。検査結果が何を意味しているか、また他の検査との関連性を説明することができる。										

授業計画											
回	テーマ					授業内容					
1	オリエンテーション					オリエンテーションにてシラバスを使用し授業内容の説明する。今後の授業の方向性や進め方を理解する。					
2	徒手筋力テスト（MMT）：総論①					MMTの成り立ちや歴史について学習する。筋力検査の原理、段階づけについて学習し基本的な考え方とMMTの方法について演習する。					
3	徒手筋力テスト（MMT）：総論②					MMTの代償運動について、筋力検査の妥当性と限界について学習する。					
4	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢①					肩甲帯のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し、演習する。					
5	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢②					肩甲帯のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。					
6	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢③					肩関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。					
7	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢④					肩関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。					
8	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢⑤					肘関節・前腕のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。					
9	徒手筋力テスト（MMT）各論：上肢⑥					手関節・手指のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。					
10	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢①					股関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。					
11	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢②					股関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。					
12	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢③					膝関節のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。					
13	徒手筋力テスト（MMT）各論：下肢④					足関節・足部・足趾のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。					
14	徒手筋力テスト（MMT）各論：体幹①					頭部・頸部のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。					
15	徒手筋力テスト（MMT）各論：体幹②					体幹のMMTについて、主動筋と補助筋、代償運動や検査方法について学習し演習する。					

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	片麻痺機能検査①	片麻痺機能検査について、片麻痺の理解を深め、検査の意義・目的について学習する。
17	片麻痺機能検査②	片麻痺機能検査（Brunnstrom recovery stage）の基本的な概念について学習し、検査方法を演習する。
18	片麻痺機能検査③	片麻痺機能検査（Brunnstrom recovery stage）の基本的な概念について学習し、検査方法を演習する。
19	片麻痺機能検査④	その他片麻痺機能検査（SIAS、12段階片麻痺機能テスト）について学習し、演習する。
20	筋緊張検査①	筋緊張異常について理解を深め、検査の意義・目的を学習する。
21	筋緊張検査②	筋緊張検査（検査方法・Ashworthscale）について学習し、演習する。
22	脳神経検査①	脳神経障害について理解を深め、検査の意義・目的を学習する。
23	脳神経検査②	脳神経検査の方法について学習し、演習する。
24	高次脳機能検査①	高次脳機能障害について、失語症、失行症を中心に責任病巣と症状を理解し、検査方法について学習する。
25	高次脳機能検査②	高次脳機能障害について失認症の責任病巣と症状を理解し、検査方法について学習する。
26	高次脳機能検査③	高次脳機能障害についての責任病巣と症状を理解し、検査方法について学習する。
27	総合練習	各検査を学生同士で系統的に演習し、技術を高め理解を深める。
28	総合練習	各検査を学生同士で系統的に演習し、技術を高め理解を深める。
29	総合練習	各検査を学生同士で系統的に演習し、技術を高め理解を深める。
30	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		検査の意義を速やかに理解できるよう、解剖学、生理学を見直して臨むこと。学生同士で練習し復習すること。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 60 %） ☒ 実技試験（ 40 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）
教 科 書		新徒手筋力検査法（協同医書出版社） 理学療法評価法（神陵文庫） ベッドサイドの神経の診かた（南山堂）
参 考 書		なし
授業の留意点・備考		実技のデモンストレーションを行う際は、積極的に被験者になること。

科目名	理学療法評価学演習	担当教員	山本 英夫
-----	-----------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法評価学					選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし、理学療法評価の思考過程について演習を行うことができる。									
授業概要		理学療法評価の初期の流れにおいて、処方箋の受領から障害やその原因の仮説、検査項目の選択し、その思考過程を構築するための演習を行う。それぞれ検査測定目的を理解し、治療へ繋がる問題点を導き出すための重要な土台となる。									
到達目標		初期情報から、模擬患者の社会的背景、疾患の病態や特徴を包括的に把握し、意義のある検査項目を選定することができる。また、評価時のリスクを考慮することができる。									
授業計画											
回	テーマ	授業内容									
1	オリエンテーション①	理学療法評価におけるボトムアップとトップダウン、検査測定の実施の根拠について、多角的に捉える視点を学習し演習する。									
2	オリエンテーション②	考え方のポイントをロジックツリーを用いて模擬症例にて演習する。									
3	整形外科疾患①	整形外科疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。									
4	整形外科疾患①	整形外科疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。									
5	整形外科疾患②	疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。									
6	整形外科疾患②	疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。									
7	整形外科疾患③	各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。									
8	整形外科疾患③	各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。									
9	中枢神経疾患①	中枢神経系疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。									
10	中枢神経疾患①	中枢神経系疾患の模擬症例について各班で調べ学習し、ロジックツリー作成、ディスカッションし模擬症例を理解する。									
11	中枢神経疾患②	疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。									
12	中枢神経疾患②	疾患の概要、評価項目の列挙、評価項目抽出の根拠をまとめ、パワーポイントで発表資料作成を行う。									
13	中枢神経疾患③	各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。									
14	中枢神経疾患③	各班でまとめた内容を発表し、質疑応答を通して知識、考え方を共有する。									
15	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。									
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		疾患に関する知識（病態、症状など）、解剖学、運動学、生理学や検査測定の意味、目的を復習して理解しておくこと。									
成績評価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 40 %） ☒ 発表（ 60 %） ☐ その他（ %）									
教科書		特に指定なし									
参考書		随時、必要な文献を用意すること									
授業の留意点・備考		能動的に学習すること。視野を広くもち考える習慣をつけること。									

科目名	臨床動作分析学	担当教員	栗野 博子
-----	---------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法評価学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		理学療法士として、主に急性期から回復期における病院勤務の中で、実際のリハビリテーションに関わった経験を活かし講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		・ヒトが動くためのメカニズムを学び、異常動作を引き起こす原因を究明するための臨床評価を学び、逸脱動作とその代償動作を、動作分析を実践する中で導き出し考察する。 ・症例の動画より動作分析を実践し、動作分析症例検討会の中で専門的用語を用いた表現や分析結果の解釈を共通にして全員で理解を深める。									
到 達 目 標		・動作のメカニズムを理解する。 ・正常動作パターンを理解し、動作を阻害する逸脱動作や代償動作に気付くことができる。 ・代表的異常動作のメカニズムを説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	動作分析学総論			動作分析の目的、手順、基礎用語、動作分析の着眼点、動作のメカニズム、逸脱運動、代償運動							
2	姿勢制御のバイオメカニクス			基本動作の姿勢制御、静止姿勢のバイオメカニズム、アライメントの変化と身体重心の制御、身体重心を移動させるためのバイオメカニクス							
3	姿勢アライメントの評価			姿勢アライメントとその評価							
4	動作計測の実践			三次元動作解析装置の活用と方法							
5	動作計測の実践			三次元動作解析装置の活用と方法							
6	寝返り・起き上がり動作			動作の概要、メカニズム、目視による動作分析、評価							
7	起立・着座			動作の概要、メカニズム、目視による動作分析、評価							
8	正常歩行			動作の概要、メカニズム、目視による動作分析、評価							
9	歩行分析の実践			歩行中の重心の観方と歩行観察のポイント							
10	異常歩行～運動器疾患			運動器疾患における逸脱・代償動作							
11	異常歩行～神経疾患			神経疾患における逸脱・代償動作							
12	異常動作分析（症例課題）			演習：異常動作分析							
13	臨床動作分析発表会			症例課題について学習した内容の発表を通し知識の共有を図る							
14	その他の異常歩行			臨床現場でよく目にする異常動作について学ぶ							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習）の具体的な内容		動作分析には、観察力が必要であり日頃から観る練習をしておくこと									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 70 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（ 10 %） ☐ その他（ %）									
教 科 書		・観察による歩行分析 ・動作分析臨床活用講座 ・実践!動作分析 第2版									
参 考 書		・臨床実践 動きのとらえかた ・The Center of the Body ・姿勢アセスメント ・歩行分析ワークブック ・基礎運動学									
授業の留意点・備考		・動作分析を行うために、準備物としてパソコン、USB、動画が撮影できるもの（携帯可※情報流出は絶対しないように）を使用することがある（事前に連絡する）。 ・姿勢アライメント評価を行う際は軽装の準備（Tシャツ・短パン等）を着用のこと。									

科目名		画像評価学					担当教員		椎木賢悟/小森隆司/岡村暢也			
学科	理学療法学科		年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	理学療法評価学							選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		救急病院から療養病院まで勤務経験があり、専門技師として病院内のスタッフにも研修を行っており、現在実際行われている、検査方法、画像について、症状、受傷経緯もふまえて、画像評価について説明を行うことができる。										
授 業 概 要		臨床現場で行われている、X線写真 CT MRI 超音波画像の基本的な原理、画像の成り立ちを理解する。教科書の理解、パワーポイントでの各疾患の画像の見え方を理解する。解剖学的位置と画像上での位置関係を理解する。										
到 達 目 標		各モダリティの画像の区別、見方を理解し、画像評価を行えるようになり、疾患の影響による機能的、能力的予後を予測しリハビリテーション計画に反映させられることを目標とする。										
授 業 計 画												
回	テーマ				授 業 内 容							
1	画像検査の実際				現在病院で行われている様々な検査について見識を高める							
2	放射線検査の基本				放射線の様々な検査方法、画像について理解をしていく							
3	画像解剖学 画像の見えかた				各種検査における、画像の基本的見方、左右、上下を理解する							
4	CT検査 原理、画像の成り立ち				CT検査の方法、時間、画像処理により様々な画像があることを学ぶ							
5	CT検査 基本的画像				健常者の画像の見えかたを各部位ごとに学んでいく							
6	CT検査 特徴的疾患画像				頭部の出血の変化、肺炎、イレウス、骨折の画像について学ぶ							
7	臨床とCT画像				CT検査が優先される症例、画像について特徴、理由を学ぶ							
8	MRI検査 画像の基本				MRIの原理 磁場、電磁波 禁忌事項について学ぶ							
9	MRI検査 基本的画像				頭部を中心に正常画像の見え方 T1、T2の画像の違いを理解する							
10	MRI検査 特徴的疾患画像				脳梗塞の画像の見え方、ヘルニア、筋、腱の症例を理解する							
11	臨床とMRI画像				検査時間、MRIで診断がつく症例について理解する							
12	頭部・脊髄の疾患				CT、MRIの画像を並べて見る事により症例の画像評価を行う							
13	脊椎・四肢の疾患				X線画像でリウマチ、骨折、術後変化、MRIヘルニア、骨折を学ぶ							
14	胸部、腹部の疾患 質問対応				肺炎 イレウスなどの症例、画像についての質問対応を受けます							
15	まとめ				これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読み、事前に画像を見ていてください。また当日のスライドでわかりにくかったところ講義後や次の講義の前に質問を行ってください。										
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☒ 小テスト（ 10 ％） ☐ レポート（ ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）										
教 科 書		PT・OTのための画像診断マニュアル：医学教育出版社 PT・OTのための画像のみかた 第2版：金原出版										
参 考 書												
授業の留意点・備考		シラバス、教科書にそって行いますが、臨床画像等はスライドを作成してきますので、気になる症例や、わかりにくいところはどんどん質問を行ってください。教科書にない部分は必ずノートを取るようしてください。（講義中にノートを取る箇所は指示を行い）										

科目名	運動療法	担当教員	佐藤 健
-----	------	------	------

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		様々な運動療法技術を修了し、現職者を対象とした講習会等でも数多くの技術指導に関わった経験を活かして実践に即した運動療法について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		臨床実習や資格取得後の実務を視野に入れて、身体における様々な諸問題（症候・障害）を理解し、その解決に必要なとなる専門的知識と具体的な介入方法について学ぶ。									
到 達 目 標		理学療法士における中核的な治療手段である運動療法の本質的役割を理解し、臨床実習や資格取得後の実務に繋がる基本的知識と技術を身につける。また、対象となる身体の諸問題（症候及び障害）を理解し、それぞれに対応する運動療法について根拠を持って講じることができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	運動療法総論①			運動療法の定義・目的・対象について学ぶ							
2	運動療法総論②			運動療法で使用する物品および機器について学ぶ							
3	疼痛症候と運動療法①			疼痛の定義と存在意義、疼痛の伝達・抑制機構等について学ぶ							
4	疼痛症候と運動療法②			筋硬結やトリガーポイントの発生および形成メカニズムについて学ぶ							
5	疼痛症候と運動療法③			筋病変に対する治療的操作と実施上の留意点を学び演習する							
6	関節可動域障害と運動療法①			関節の基本構造と臨床での諸問題（拘縮・強直）について学ぶ							
7	関節可動域障害と運動療法②			上肢における基本的な関節可動域運動を演習する							
8	関節可動域障害と運動療法③			下肢における基本的な関節可動域運動を演習する							
9	関節可動域障害と運動療法④			関節内運動（Joint Play）における操作について演習する							
10	関節可動域障害と運動療法⑤			関節内運動（Joint Play）における操作について演習する							
11	関節可動域障害と運動療法⑥			関節モビライゼーション（Joint Mobilization）について学習する							
12	関節可動域障害と運動療法⑦			関節モビライゼーション（上・下肢）について学び演習する							
13	関節可動域障害と運動療法⑧			関節モビライゼーション（上・下肢）について学び演習する							
14	関節可動域障害と運動療法⑨			筋伸張運動（muscle stretching Ex.）について学ぶ							
15	関節可動域障害と運動療法⑩			上肢および下肢を中心とした筋伸張運動について検討し演習する							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	筋力（筋張力）低下と運動療法①	筋力増強に必要な周辺知識（筋張力と筋持久力の違い・筋の収縮様式など）について学ぶ
17	筋力（筋張力）低下と運動療法②	筋力増強に必要な周辺知識（特性・原則など）について学ぶ
18	筋力（筋張力）低下と運動療法③	上肢における基本的な筋力増強運動を演習する
19	筋力（筋張力）低下と運動療法④	下肢における基本的な筋力増強運動を演習する
20	バランス障害と運動療法①	バランスの定義や力学的解釈を理解しバランスに影響する因子を学習する
21	バランス障害と運動療法②	バランスに関係する身体要素について学習する
22	バランス障害と運動療法③	身体におけるバランス戦略と基本的なバランスエクササイズを演習する
23	協調性障害と運動療法①	協調性獲得に必要な運動制御とその神経機構について学ぶ
24	協調性障害と運動療法②	協調性改善に求められる原則的な関わり方と留意点を学ぶ
25	協調性障害と運動療法③	運動学習の基本について学ぶ
26	加齢と運動療法①	加齢に伴う身体症候の特徴とその関わり方について学ぶ
27	加齢と運動療法②	加齢に伴う身体症候改善に対するアプローチを検討し演習する
28	治療体操および運動①	Williams体操、McKenzie体操、Kraus-Weber体操について学び演習する Bohler体操、Klapp運動、Coddman体操について学び演習する
29	治療体操および運動②	Frenkel体操、骨盤底筋体操、Buerger-Allen体操について学び演習する
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		・Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学（メジカルビュー社） ・最新 運動療法大全 I 基礎編 第6版（ガイアブックス）
参 考 書		
授業の留意点・備考		本講義では現場に即した身だしなみ（実習靴及び実習着着用、整髪、貴金属類の装着不可等）や態度での受講を基本とする。問題解決的意識を持って臨み、特にグループでの学習活動に際しては、能動的かつ積極的な学習姿勢で相互的理解に努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。

教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。

☒ 定期試験 (80 %) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (20 %)
☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 (%)

- ・Crosslink 理学療法テキスト 運動療法学 (メジカルビュー社)
- ・最新 運動療法大全 I 基礎編 第6版 (ガイアブックス)

[illegible]

本講義では現場に即した身だしなみ（実習靴及び実習着着用、整髪、貴金属類の装着不可等）や態度での受講を基本とする。問題解決的意識を持って臨み、特にグループでの学習活動に際しては、能動的かつ積極的な学習姿勢で相互的理解に努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。

科目名	運動器理学療法Ⅰ	担当教員	岩北 耕三
-----	----------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		理学療法士として10年以上、運動器疾患理学療法の臨床経験をもち、多数の症例を経験してきたことを活かし、運動器疾患理学療法の講義を行う。									
授 業 概 要		理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に整形外科学の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。									
到 達 目 標		運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 代表的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。									

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・総論	運動器理学療法の領域や内容について講義する。
2	骨・軟骨障害①	変形性関節症総論
3	骨・軟骨障害②	変形性脊椎症の理学療法
4	骨・軟骨障害③	変形性膝関節症の保存療法における理学療法
5	骨・軟骨障害④	変形性膝関節症の手術療法における理学療法
6	骨・軟骨障害⑤	変形性膝関節症の高齢者に対する理学療法
7	骨・軟骨障害⑥	変形性股関節症の保存療法における理学療法
8	骨・軟骨障害⑦	変形性股関節症の手術療法における理学療法
9	骨・軟骨障害⑧	骨軟骨障害のまとめ
10	関節軟部組織性障害①	靱帯損傷・半月板損傷の総論
11	関節軟部組織性障害②	前十字靱帯・後十字靱帯損傷
12	関節軟部組織性障害③	膝内側側副靱帯損傷、半月板および足関節外側側副靱帯損傷
13	関節軟部組織性障害④	関節軟部組織性障害まとめ
14	関節軟部組織性障害⑤	関節軟部組織性障害まとめ
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること
成 績 評 価	☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書	シンプル理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版
参 考 書	
授業の留意点・備考	・ 授業を欠席しない。 ・ 積極的な授業態度を望む。 ・ わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する。

科目名	運動器理学療法Ⅱ	担当教員	岩北 耕三
-----	----------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		理学療法士として10年以上、運動器疾患理学療法の臨床経験をもち、多数の症例を経験してきたことを活かし、運動器疾患理学療法の講義を行う。									
授 業 概 要		理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に整形外科学の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。									
到 達 目 標		運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 代表的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。									

圖 業 計 劃

回	テーマ	授 業 内 容
1	関節構造に由来する障害①	脱臼総論
2	関節構造に由来する障害②	動揺関節、関節不安定性
3	骨性障害①	骨折総論
4	骨性障害②	大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術前、術後）
5	骨性障害③	大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術後回復期）
6	骨性障害④	大腿骨頸部骨折、転子部骨折（高齢者プログラム）
7	骨性障害⑤	下肢の骨折
8	骨性障害⑥	上肢の骨折
9	骨性障害⑦	脊椎の骨折
10	筋・軟部組織性障害①	筋・軟部組織性障害の概論
11	筋・軟部組織性障害②	肩関節周囲炎
12	筋・軟部組織性障害③	肩腱板損傷（保存療法、手術療法）
13	Motor unit性障害	Motor unit性障害
14	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること
成績評価	☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 20 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）
教科書	シンプル理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版
参考書	
授業の留意点・備考	・ 授業を欠席しない。 ・ 積極的な授業態度を望む。 ・ わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する。

科目名	運動器理学療法Ⅲ	担当教員	岩北 耕三
-----	----------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		理学療法士として10年以上、運動器疾患理学療法の臨床経験をもち、多数の症例を経験してきたことを活かし、運動器疾患理学療法の講義を行う。									
授業概要		理学・作業療法士として整形外科疾患を理解することは臨床において重要である。本授業においては、講義を中心に整形外科学の基礎から各疾患に及ぶ幅広い知識を教授し、習得していく。									
到達目標		運動器疾患を体系的に学び、その臨床症状や障害像を理解する。 代表的な整形外科疾患の病態生理、症状、経過、治療法、用語を理解する。									

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
1	脊椎性障害①	頸椎椎間板ヘルニア、頸部脊椎症、頸部後縦靱帯骨化症
2	脊椎性障害②	急性腰痛、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症
3	脊椎性障害③	慢性腰痛症
4	脊椎性障害④	脊椎性障害のまとめ
5	複合障害①	関節リウマチ
6	複合障害②	スポーツ傷害
7	複合障害③	スポーツ傷害
8	演習	疾患の臨床推論を行う
9	演習	疾患の臨床推論を行う
10	演習	疾患の臨床推論を行う
11	演習	疾患の臨床推論を行う
12	演習	疾患の臨床推論を行う
13	演習	疾患の臨床推論を行う
14	演習	疾患の臨床推論を行う
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること
成績評価	☒ 定期試験（ 80 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☒ レポート（ 20 ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）
教科書	シンプル理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版
参考書	
授業の留意点・備考	・授業を欠席しない。 ・積極的な授業態度を望む。 ・わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する。

科目名	神経理学療法Ⅰ	担当教員	緒方 茂
-----	---------	------	------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		脳血管疾患およびパーキンソン病を代表とする錐体外路疾患などの評価・治療を含めた関わりによる経験から、一般的な中枢性疾患の機能解剖や病態症状、評価について講義を行う事が出来る。									
授 業 概 要		中枢性疾患における病態や評価を理解し、実技を交えながら中枢性疾患に対する病態および障害把握の方法を理解し、臨床的能力を養い4年次の臨床実習あるいは卒業後の実務へと繋げる。									
到 達 目 標		中枢神経系 (CNS) の機能解剖を理解し、中枢性疾患における病態や症状を学び、中枢性疾患でよく用いられる評価方法を習得する。									

授業計画		
回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や受講時の注意点、授業の概要等を説明する。
2	中枢神経系の構造と機能①	神経系の最小単位ニューロンの構造と機能を理解し、情報の伝達方法であるシナプスについて理解を深める。
3	中枢神経系の構造と機能②	大脳皮質や大脳基底核、間脳や中脳などのマクロ構造とその機能局在を理解する。
4	中枢神経系の構造と機能③	感覚機能の情報伝達を行なう上行路と運動機能の情報伝達を行なう下行路の伝達系および脳血管の走行を理解する。
5	脳卒中の原因と病態①	脳血管障害、主に虚血性脳卒中の分類とその病態を理解する。
6	脳卒中の原因と病態②	脳出血、くも膜下出血の病態を理解する。
7	脳卒中の内科的医療・外科的治療	意識障害、薬物治療、反復性経頭蓋磁気刺激治療とボツリヌス治療の概要を理解する。
8	急性期からのリハビリとリスク管理	急性期からのリハビリテーションの重要性を理解し、リスク管理及びベッドサイドリハを学ぶ
9	脳血管障害のADLと総合評価①	脳卒中治療ガイドライン2015が推奨する評価法を確認しADL評価の復習を行なう。
10	脳血管障害のADLと総合評価②	脳卒中片麻痺患者の総合的評価として、Fugl-Meyer評価 Japan Stroke Scaleを理解する
11	脳血管障害のADLと総合評価③	脳卒中片麻痺患者の総合的評価として、SIASを理解する。
12	脳血管障害の運動機能検査①	脳卒中片麻痺患者の運動機能の障害像を理解し、brunnstrom stageの回復段階指標を復習する。
13	脳血管障害の運動機能検査②	筋緊張の評価を理解し、実施できるように身につける。
14	評価関連のまとめ	実技を通して復習し、様々な評価法を習得する。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	2年次の神経内科学や評価学で中枢性疾患に関連する内容は事前に学習しておく。
成績評価	☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教科書	脳卒中理学療法の理論と技術第3版 メジカルビュー社
参考書	病気がみえるvol.7 脳・神経第2版 メディックメディア
授業の留意点・備考	アクティブラーニング中心の講義を行うので、自主的な学習を心掛けるように。

科目名	神経理学療法Ⅱ						担当教員	佐藤 健			
学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		医療機関にて脳血管障害症例の急性期・回復期・生活期における全ての理学療法に従事した経験を活かし、実践に即した講義・演習を行うことができる。									
授業概要		臨床実習や資格取得後の実務を視野に入れて、脳血管障害症例の身体における主な諸問題（症候・障害）を理解し、その解決に必要なとなる具体的な介入視点を養う。									
到達目標		脳血管障害患者に対する理学療法の本質的役割を理解し、臨床実習や資格取得後の実務に繋がる基本的知識と関わり方を身につける。									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1	脳血管障害患者のリハビリテーション			リハビリテーション医療における時期（病院機能分化）毎の目的・注意点・理学療法について学び演習する							
2	脳血管障害患者の身体症候と理学療法 ①運動麻痺			中枢性運動麻痺の回復過程 / 異常筋緊張について / BRSと異常筋緊張の診方（MAS） / ボツリヌス療法について学ぶ							
3	脳血管障害患者の身体症候と理学療法 ②痛み			脳血管障害患者が痛みを訴える病態について / CRPSにおける疼痛のTypeとその関わり方について学ぶ							
4	脳血管障害患者の身体症候と理学療法 ③失行・失認			失行・失認の病態 / 失行・失認患者の特徴と動作 / 失行・失認患者への理学療法アプローチについて学ぶ							
5	脳血管障害患者と理学療法 ①姿勢と動作			先行随伴性姿勢調節（APAs）、逆応答現象、CPGについて / 脳血管障害患者の姿勢・動作改善に必要な介入視点について学ぶ							
6	脳血管障害患者と理学療法 ②基本的な理学療法アプローチ			基本的な理学療法アプローチと実施上の留意点について学習し演習する							
7	脳血管障害患者と理学療法 ③特殊な理学療法アプローチ			特殊な理学療法アプローチ（Burnnstrom法、PNF、Bobath法、認知運動療法、CI療法、促進回復法、バイオフィードバック法）について学ぶ							
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。									
成績評価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 10 %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☒ その他（ ）									
教科書		・『脳卒中理学療法の理論と技術』 メジカルビュー社 ・『脳卒中・片麻痺理学療法マニュアル』 文光堂 ・『病気が見える vol. ⑦ ～脳・神経～』 メディックメディア社									
参考書											
授業の留意点・備考		単なる暗記ではなく、臨床実習や資格取得後の実務における治療対象であることを認識し、理解に繋がるイメージづくりに努め、能動的かつ積極的な学習姿勢で臨むこと。									

科目名	神経理学療法Ⅱ	担当教員	山本 英夫
-----	---------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かし、神経筋疾患について講義、演習を行うことができる。									
授 業 概 要		神経筋疾患の変性疾患《パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）脊髄小脳変性症（SCD）、多系統萎縮症（MSA）》、脱髄疾患《多発性硬化症（MS）、ギラン・バレー症候群》筋疾患《Duchenne型筋ジストロフィー、重症筋無力症（MG）》の基本的な理学療法と疾患に応じた注意点を学習する。									
到 達 目 標		種々の神経筋疾患の病態や症状を理解し、適切な理学療法を選択することができる。また、実施上の注意について理解する。									

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8	変性疾患①	パーキンソン病の理学療法について学習する。
9	変性疾患②	パーキンソン病の理学療法について学習する。
10	変性疾患③	筋萎縮性側索硬化症の理学療法について学習する。
11	変性疾患④	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の理学療法について学習する。
12	脱髄性疾患	多発性硬化症、ギラン・バレー症候群の理学療法について学習する。
13	筋疾患①	Duchenne型筋ジストロフィーの理学療法について学習する。
14	筋疾患②	重症筋無力症の理学療法について学習する。
15	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	速やかに理解できるよう、疾患の概要とそれに関わる解剖学、生理学の基礎知識を予習して臨むこと。
成 績 評 価	☒ 定期試験（ 50 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 50 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書	病気がみえる7 脳・神経（MEDIC MEDIA） Crosslink 理学療法学テキスト神経障害理学療法学Ⅱ（メジカルビュー）
参 考 書	適宜紹介する
授業の留意点・備考	疾患の病態、症状から適切な理学療法を選択するまでのつながりを理解すること。

科目名	神経理学療法Ⅲ	担当教員	緒方 茂
-----	---------	------	------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		脳血管疾患およびパーキンソン病を代表とする錐体外路疾患などのADLを含めた関わりによる経験から、一般的な中枢性疾患の理学療法における臨床思考について講義を行う事が出来る。									
授 業 概 要		中枢性疾患の理学療法における評価・治療を理解し、モデルケースを通して臨床的問題を考える力および解決力を養い4年次の臨床実習あるいは卒業後の実務へと繋げる。									
到 達 目 標		中枢系疾患を起因とした障害像を理解し、各種ケースにおける問題点を推察し、問題解決に必要な評価項目の選択および妥当な理学療法プログラムとゴールの立案ができる。またこれらの臨床的推論能力の向上のみならず、問題解決過程を通じて自己啓発する学習方法を習得する。									

授業計画		
回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバスを用いて講義の流れや進め方を説明し、神経理学療法Ⅲの講義内容の概要を一通り理解する。
2	理学療法のプロセスについて	2年次に学習した理学療法のプロセスについて復習を踏まえて再度確認を行なう。
3	診療参加型臨床実習について①	理学療法臨床実習のあり方についての経緯と診療参加型実習への転換について学ぶ。
4	診療参加型臨床実習について②	診療参加型臨床実習の概要について学ぶ。
5	ICFおよび統合と解釈について	ICFに基いた統合と解釈の内容と方法を学ぶ。
6	ケーススタディ①	脳血管疾患の情報収集について方法及び重要ポイントを学ぶ。
7	ケーススタディ②	脳血管疾患の評価項目の選定について学ぶ。
8	ケーススタディ③	脳血管疾患の評価項目の選定について学ぶ。
9	中間発表	
10	ケーススタディ④	統合と解釈による問題点の抽出について学ぶ。
11	ケーススタディ⑤	統合と解釈による問題点の抽出について学ぶ。
12	ケーススタディ⑥	治療プログラムの立案について学ぶ。
13	ケーススタディ⑦	治療プログラムの立案について学ぶ。
14	症例発表	
15	症例発表	

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	評価の流れなど2年次に習得しているものは、事前に予習で確認するように。
成績評価	☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☒ 発表（ 100 %） ☐ その他（ ）
教科書	基本編 ケースで学ぶ理学療法臨床思考 第2版 文光堂
参考書	理学療法臨床実習ガイド 医学書院
授業の留意点・備考	グループ学習への参加を積極的に行い、各々個人にて目標達成できるように取り組む。

科目名	内部障害理学療法	担当教員	山下 俊
-----	----------	------	------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		急性期、亜急性期、術後症例を担当し、運動器・代謝・心大血管疾患を中心に検査・測定を行った経験を活かし、各疾患の検査・測定手技について講義・演習を行う。									
授 業 概 要		身体障害者の数は高齢化とともに年々増加傾向にある。なかでも、心疾患を中心とした内部障害患者は聴覚・視覚障害、肢体不自由者が近年横ばいであるのに対し、急増している。また、重複障害として、内部障害を持つ患者も少なくない。 本講義内では、各分野における代表疾患を例とし、その捉え方について学んでいく。									
到 達 目 標		内部疾患に対する評価項目の立案。 内部障害に対する包括的アプローチ（多職種連携）の検討。									

授業計画		
回	テーマ	授業内容
1	内部障害理学療法 総論	内部障害の定義、種類、最近の傾向について学習する。
2	呼吸機能障害と理学療法①	呼吸器の構造と呼吸調節機能について学習する。
3	呼吸機能障害と理学療法②	呼吸機能評価の意義と方法について学習する。
4	呼吸機能障害と理学療法③	呼吸障害における理学療法手技について学習・演習する。
5	呼吸機能障害と理学療法④	慢性閉塞性肺疾患（COPD）の病態を理解し、一般的な治療を学習する。
6	呼吸機能障害と理学療法⑤	COPDに対する理学療法評価および理学療法治療について学習する。
7	循環機能障害と理学療法①	循環器の構造と仕組み、運動時の生体反応について学習する。
8	循環機能障害と理学療法②	心不全の病態を理解し、一般的な治療を学習する。
9	循環機能障害と理学療法③	心不全に対する理学療法評価および理学療法治療について学習する。
10	循環機能障害と理学療法④	虚血性心疾患の病態を理解し、一般的な治療を学習する。
11	循環機能障害と理学療法⑤	虚血性心疾患に対する理学療法評価および理学療法治療について学習する。
12	代謝障害と理学療法①	肥満と高血圧、メタボリックシンドロームについて学習する。
13	代謝障害と理学療法②	身体活動の強さ（METs）を理解し、運動強度と運動プログラムを学習する。
14	代謝障害と理学療法③	糖尿病の症候および障害を理解し、運動療法を実施する。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	講義ごとに随時復習を行い、理解度を高めること。 1.2年次に学習した解剖・運動生理・内科学を復習すること。
成績評価	☒ 定期試験（90%） ☐ 実技試験（ %） ☒ 小テスト（10%） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）
教科書	Crosslink 理学療法テキスト 内部障害理学療法：MEDICAL VIEW、医歯薬出版株式会社、病気がみえる循環器 vol.2 第4版：MEDIC MEDIA、病気がみえる呼吸器 vol.4 第3版：MEDIC MEDIA、リハビリテーション リスク管理 ハンドブック 改訂第3版：MEDICAL VIEW
参考書	糖尿病の理学療法：MEDICAL VIEW、指導士資格認定試験準拠 心臓リハビリテーション必修：心臓リハビリテーション学会、リハ実践テクニック 呼吸ケア：MEDICAL VIEW
授業の留意点・備考	理学療法評価および実技を行う機会があるため、服装は軽装で受講とする。軽装が必要時には、講義前に連絡を行う。

科目名		その他疾患理学療法						担当教員		上田 恵理奈		
学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義	
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修		
担当教員の実務経験		小児における訪問リハビリテーションにおいて、小児リハに加え呼吸理学療法や気道クリアランスに特化し、小児疾患における様々な対応について講義演習を行うことができる。										
授 業 概 要		人工呼吸に関する医療技術が進歩し、小児領域においても、継続した在宅人工呼吸管理や医療ケア児が増えている。ここでは慢性呼吸不全を有する小児疾患概念から小児呼吸理学療法について基礎的な考えを学ぶ。										
到 達 目 標		小児の呼吸理学療法の基礎となる神経金疾患の呼吸不全の特徴や呼吸機能評価～気道クリアランスについて説明できる。										
授 業 計 画												
回	テーマ			授 業 内 容								
1	熊本における小児在宅人工呼吸の実際			熊本における医療的ケア児の実際や療育・学校含め、障がい児が成長し障がい者となる過程において理学療法士としての関わりを学ぶ。								
2	小児の呼吸について			胎児の呼吸器系の発生～小児呼吸器の特徴、呼吸障害について学ぶ								
3	人工呼吸器について			人工呼吸器の目的や構造・設定についての理解する。								
4	神経筋疾患の呼吸ケア			非侵襲的人工呼吸についてのグループ演習を通し自ら学ぶ。								
5	小児呼吸器疾患に対する気道クリアランス			気道クリアランスの理論を理解し、演習にて実際に体験する。								
6	グループ演習～発表			呼吸ケアについて理解して説明することができる。								
7	グループ演習～発表			呼吸ケアについて理解して説明することができる。								
8												
9												
10												
11												
12												
13												
14												
15												

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		
成 績 評 価	☒ 定期試験（ 100 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）	
教 科 書	JJNスペシャル NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）のすべて これからの人工呼吸：医学書院	
参 考 書		
授業の留意点・備考		

科目名	その他疾患理学療法						担当教員	山本 英夫・岩北 耕三			
学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修		必修
担当教員の実務経験		総合リハビリテーション病院での業務経験を活かして講義、演習を行う。									
授 業 概 要		脊髄損傷の病態や分類、症状、二次障害、合併症、機能障害などの基礎知識の復習から評価、障害に応じたりハビリテーション、予後まで系統的に学習し演習する。 小児疾患・がんリハについてもそれぞれの特徴に応じた理学療法について学習する。									
到 達 目 標		各種病態の基礎知識から評価、障害に応じたりハビリテーション、予後まで一連の理学療法について理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			脊髄損傷を学習する上で必要な解剖生理を復習する。							
2	脊髄損傷総論①			脊髄損傷の概要、分類（完全損傷、不全損傷、ブラウンセカール症候群、中心性頸髄損傷等）について学習する。							
3	脊髄損傷総論②			各種の脊髄損傷の病態について、脊髄の解剖生理を交え学習する。							
4	脊髄損傷総論③ 障害			脊髄損傷の症状、随伴症状（呼吸障害、排尿排便障害、痙攣等）							
5	脊髄損傷総論④ 二次障害			脊髄損傷の症状、随伴症状（自律神経機能障害、循環障害等）							
6	脊髄損傷総論⑤ 二次障害			脊髄損傷における合併症（褥瘡、異所性骨化、拘縮）、心理的問題について学習する。							
7	脊髄損傷の機能障害の評価			Frankelの分類、Zancoll i の上肢機能分類、ASIAの神経学的評価について学習する。							
8	脊髄損傷の理学療法①			急性期のリハビリテーションと合併症管理について学習する。							
9	脊髄損傷の理学療法②			機能残存レベル別の基本的な理学療法プログラムについて学習する。							
10	脊髄損傷の理学療法③			運動療法（ROM訓練、筋力増強訓練、姿勢保持訓練など）について学習し、脊髄損傷患者に対する運動療法を演習する。							
11	脊髄損傷の理学療法④			頸髄損傷の機能残存レベル別の起居動作（坐位保持、寝返り、起き上がり）について学習し、指導・介助方法とその動作を演習する。							
12	脊髄損傷の理学療法⑤			頸髄損傷の機能残存レベル別のプッシュアップ、垂直移乗、側方移乗動作を学習し、指導・介助方法とその動作を演習する。							
13	脊髄損傷の理学療法⑥			頸髄損傷の機能残存レベル別の車椅子駆動、キャスター上げの動作を学習し、指導・介助方法とその動作を演習する。							
14	脊髄損傷の理学療法⑦			胸・腰髄損傷の歩行動作について学習し、指導方法とその動作を演習する。							
15	脊髄損傷の理学療法⑧			脊髄損傷患者の社会復帰と環境設定について学習する。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	小児疾患の理学療法①	小児の発達検査（遠城寺式、デンバー式）について学習する。
17	小児疾患の理学療法②	脳性麻痺（痙直型、アトローゼ型）の概要と分類、評価（PEDI、GMFCS）について学習する。
18	小児疾患の理学療法③	脳性麻痺の理学療法について学習する。
19	小児疾患の理学療法④	小児整形外科疾患：骨端症（ベルテス病、Osgood Schlatter病など）、発育性股関節形成不全、二分脊椎、内反足について学習する。
20	がんリハビリテーション①	がんの基礎とがんリハビリテーションの基礎知識について学習する。
21	がんリハビリテーション②	病期別のリハビリテーションについて学習する。（周術期、化学・放射線療法中や後、緩和ケア）
22	がんリハビリテーション③	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
23	がんリハビリテーション④	これまで学習したことを復習し、理解を深める。
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		速やかに理解できるよう、疾患の概要とそれに関わる解剖学、生理学の基礎知識を予習して臨むこと。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 30 %） ☒ 実技試験（ 10 %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 20 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）
教 科 書		脊髄損傷マニュアル（医学書院） 病気がみえる vol.11 運動器・整形外科 第1版 メディックメディア Crosslink 理学療法テキスト 内部障害理学療法学：MEDICAL VIEW その他は随時資料配布
参 考 書		プロメテウス解剖学アトラス（医学書院）
授業の留意点・備考		疾患の病態、症状から適切な理学療法を選択するまでのつながりを理解すること。

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		介護老人保健施設で維持期における様々な利用者の評価・日常生活活動(ADL)の指導、在宅復帰指導の経験を活かし、日常生活活動の基礎や基本動作、リハビリテーション支援機器の使用方法について講義・演習を行う。									
授 業 概 要		日常生活活動の概念を理解し、これまでに学んだ知識(評価学・運動療法学等)を踏まえながら実際の支援の方法を学習する。									
到 達 目 標		日常生活活動の定義、各疾患における適応と実際を理解する。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	ADLの概念と範囲			ノーマライゼーション、IL運動、ADLの範囲と概念およびAPDL、IADL、QOLについて学ぶ。							
2	ADLと障害の概念			国際障害分類、国際生活機能分類およびADL指導の基本原則について学ぶ							
3	ADLの評価①			日常生活評価の目的および意義、評価基準・評価尺度について学ぶ。							
4	ADLの評価②			Barthel Indexについて学ぶ。							
5	ADLの評価③			Barthel Indexを使用して実際に模擬症例を評価してみる。							
6	ADLの評価④			FINについて学ぶ。①							
7	ADLの評価⑤			FINについて学ぶ。②							
8	ADLの評価⑦			FINを使用して実際に模擬症例を評価してみる。							
9	ADLの評価⑧			その他の日常生活評価について学ぶ。							
10	基本動作①			基本動作の分類、静的基本動作について学ぶ。							
11	基本動作②			座位基本動作について学ぶ。							
12	基本動作③			立位基本動作について学ぶ。							
13	複合動作指導①			ADL指導、動作の習得について学ぶ。							
14	複合動作指導②			起居・移動動作について学ぶ。							
15	複合動作指導③			身のまわり動作について学ぶ。							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	リハビリテーション支援機器	リハビリテーション支援機器の分類と移動補助具について学ぶ。
17	脳卒中片麻痺患者へのADL指導①	片麻痺の問題点を知り、リハビリテーションの流れについて学ぶ。
18	脳卒中片麻痺患者へのADL指導②	片麻痺でのADL指導の考え方、基本動作の介助・指導方法を学ぶ。
19	脳卒中片麻痺患者へのADL指導③	片麻痺の移乗、移動の介助・指導方法を学ぶ。
20	脳卒中片麻痺患者へのADL指導④	片麻痺のセルフケアの方法や自助具について学ぶ。
21	パーキンソン病のADL指導	パーキンソン病の動作指導のポイント、基本動作の介助方法と指導について学ぶ。
22	脊髄損傷のADL指導①	脊髄損傷の分類、評価、レベル別残存機能、合併症について学ぶ。
23	脊髄損傷のADL指導②	脊髄損傷のレベル別除圧方法、ADLの考え方を学ぶ。
24	脊髄損傷のADL指導③	C5～C8脊髄損傷のレベル別ADL指導方法と自助具および脊髄損傷レベルと歩行能力、更衣と排尿について学ぶ。
25	神経筋疾患のADL指導	デュシェンヌ型筋ジストロフィーを例としてADLの捉え方、病態の経過、評価および理学療法介入、自助具や装具、ADLについて学ぶ。
26	脳性麻痺のADL指導	脳性麻痺の分類、評価、合併症また、ADL制限を理解し、理学療法介入方法について学ぶ。
27	関節リウマチのADL指導	関節リウマチの特徴、評価およびADLのポイント、指導、基本動作方法、自助具について学ぶ。
28	整形疾患のADL	TKA、THAの動作やADL指導、環境整備および慢性腰痛症、肩関節周囲炎等の上肢整形疾患におけるADL指導について学ぶ。
29	内部障害患者へのADL指導	呼吸器・循環器および代謝障害患者へのADL指導について学ぶ。
30	定期試験	
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んで予習しておいてください。また、授業で配る資料の復習をしてください。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 10 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		日常生活活動（ADL） 神陵文庫
参 考 書		動作分析臨床活用講座 メジカルビュー社
授業の留意点・備考		演習では遠慮せず積極的な態度で、また、健常者の場合と比べて考える意識をもって臨んでください。

科目名	ADLⅡ	担当教員	佐藤 健
-----	------	------	------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		急性期から生活期において小児から高齢者に至る幅広い年代の症例を対象とした理学療法に従事し、さらに地域や行政から委託された指導の経験を活かして、実践に即した講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		症候・障害内容に応じた「活動制限」を捉え、動作上の特徴などを踏まえながら対象者のADL獲得及びQOL向上に向けた具体的な思考や介入方法について学習する。									
到 達 目 標		ADLの概念・指導の考え方を理解し、必要な評価法の実施を図ることができる。また、症候・障害内容に応じた動作上の特徴を理解し、適切な介助・支援方法ならびに指導方法を選択し実施することができる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	オリエンテーション			理学療法士に求められるADL指導の在り方について学習する							
2	基本的動作と介助法①			基本的動作、応用的動作、ADL上の姿勢・肢位について学習する							
3	基本的動作と介助法②			動作介助の意義とともに基本的動作における介助法を学び演習する							
4	基本的動作と介助法③			床上動作・立ち上がり・移乗を中心とした介助法を検討し演習する							
5	基本的動作と介助法④			床上動作・立ち上がり・移乗を中心とした介助法を演習する							
6	基本的動作と介助法⑤			床上動作・立ち上がり・移乗を中心とした介助法を演習する							
7	脳卒中片麻痺患者に対するADL指導①			床上動作・立ち上がり・移乗に対するADL指導を学び演習する							
8	脳卒中片麻痺患者に対するADL指導②			移動動作（車椅子・歩行）に対するADL指導を学び演習する							
9	脳卒中片麻痺患者に対するADL指導③			Self-careに対するADL指導を学び演習する							
10	脳卒中片麻痺患者に対するADL指導④			乗り物への乗降などに対するADL指導を学び演習する							
11	運動器障害患者に対するADL指導①			松葉杖処方と荷重負荷設定を中心に下肢骨折患者のADL指導を学び演習する							
12	運動器障害患者に対するADL指導②			人工関節全置換術後患者の疾患特性を踏まえてADL指導を学び演習する							
13	運動器障害患者に対するADL指導③			関節リウマチ（RA）患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する							
14	運動器障害患者に対するADL指導④			関節リウマチ（RA）患者におけるADL指導を演習する							
15	運動器障害患者に対するADL指導⑤			有痛性疾患患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する							

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	運動器障害患者に対するADL指導⑥	腰痛患者へのリーフレット作成を通してADL指導を演習する
17	運動器障害患者に対するADL指導⑦	腰痛患者へのリーフレット作成内容を発表し演習する
18	神経難病患者に対するADL指導①	パーキンソン病（PD）患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
19	神経難病患者に対するADL指導②	パーキンソン病（PD）患者におけるADL指導を演習する
20	神経難病患者に対するADL指導③	脊髄小脳変性症（SCD）患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
21	神経難病患者に対するADL指導④	脊髄小脳変性症（SCD）患者におけるADL指導を演習する
22	神経難病患者に対するADL指導⑤	筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
23	神経難病患者に対するADL指導⑥	筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者におけるADL指導を演習する
24	神経難病患者に対するADL指導⑦	筋ジストロフィー（MD）患者・児の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
25	神経難病患者に対するADL指導⑧	筋ジストロフィー（MD）患者・児におけるADL指導を演習する
26	神経難病患者に対するADL指導⑨	脳性麻痺（CP）患者・児の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習する
27	神経難病患者に対するADL指導⑩	脳性麻痺（CP）患者・児におけるADL指導を演習する
28	心・肺機能障害患者に対するADL指導①	循環器障害患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習し演習する
29	心・肺機能障害患者に対するADL指導①	呼吸器障害患者の疾患特性とともにADL指導上の留意点を学習し演習する
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習(予習復習)の具体的な内容		教科書等を用いて授業内容を事前に確認し、受講後は講義内容の振り返りを必ず実施すること。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 10 %） ☒ 発表（ 10 %） ☒ その他（ ）
教 科 書		・PT・OTビジュアルテキストADL 第1版：羊土社
参 考 書		・標準理学療法学 日常生活活動・生活環境学 第4版：医学書院
授業の留意点・備考		学習内容に対して自分なりの考えを持ち、能動的かつ積極的な学習姿勢で他者と分かち合いながら相互的に理解していくように努めること。また、提出物や作成物等の提出は必ず期限を厳守すること。

科目名	物理療法Ⅰ	担当教員	岩北 耕三
-----	-------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	医療の現場で実際に物理療法を実施した経験を活かして、物理療法の有効性や実際の使い方について講義を行う。
-----------	---

授 業 概 要	物理療法は運動療法とともに理学療法の両輪であり重要な治療手段である。物理療法は、様々な生体反応に好影響をもたらし、運動療法と併用・同時実施することで治療効果を相乗的に高められる。本科目では物理療法のうち、熱を使うもの（温熱療法と寒冷療法）について、生体内の反応を含めた効果や適応・禁忌を学ぶ。
---------	--

到達目標	熱を用いる物理療法について理解し、理論的に説明することが可能である。また、機器の安全かつ正確な操作が実施できる。
------	--

授業計画	
------	--

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション 物理療法とは	物理療法とは何か、その概要について学ぶ。
2	物理療法総論	物理療法とは何か、その概要について学ぶ。
3	温熱療法総論	温熱療法の総論・基礎知識を学ぶ
4	温熱療法①	ホットパックの定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
5	温熱療法②	パラフィン浴の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
6	温熱療法③	超短波療法・極超短波の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
7	超音波療法①	超音波療法の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
8	超音波療法②	超音波療法の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
9	光線療法	光線療法の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
10	光線療法	光線療法の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
11	寒冷療法	寒冷療法の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
12	寒冷療法	寒冷療法の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
13	電気刺激療法①	電気刺激療法の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
14	電気刺激療法②	電気刺激療法の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
15	筋電図バイオフィードバック療法①	筋電図バイオフィードバック療法の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	筋電図バイオフィードバック療法②	筋電図バイオフィードバック療法の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
17	牽引療法	牽引療法の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
18	牽引療法	牽引療法の定義・分類, 実施手順, 適応と禁忌
19	演習	課題演習
20	演習	課題演習
21	演習	課題演習
22	演習	課題演習
23	グループでの演習	各物理療法の実技
24	グループでの演習	各物理療法の実技
25	グループでの演習	各物理療法の実技
26	グループでの演習	各物理療法の実技
27	グループでの演習	各物理療法の実技
28	グループでの演習	各物理療法の実技
29	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習(予習復習)の具体的な内容		物理療法を実施する場合, 生体内でどのような変化が起こるか理解することが大切であり, 生理学の知識が必要。生理学の知識の整理, 復習を行うこと
成 績 評 価		☒ 定期試験 (50 %) ☒ 実技試験 (40 %) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (10 %) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☐ その他 ()
教 科 書		吉田英樹編集 理学療法学テキスト 物理療法学: MEDICALVIEW
参 考 書		網本和, 菅原恵一編集 標準理学療法学専門分野 物理療法学 医学書院 庄本康治編集 エビデンスから身につける物理療法 羊土社
授業の留意点・備考		各種物理療法の実技時は軽装を準備すること

科目名		物理療法Ⅱ					担当教員		岩北 耕三			
学科	理学療法学科		年次	3	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修		必修	
担当教員の実務経験		医療の現場で実際に物理療法を実施した経験を活かして、物理療法の有効性や実際の使い方について講義を行う。										
授 業 概 要		物理療法は運動療法と並ぶ代表的治療であり、熱・光・水・電気・機械的刺激など各種物理的刺激を生体に加えることで症状の改善を図る理学療法の一手段である。臨床の場で扱われている物理療法について、その作用、効果、禁忌を理解し、患者の症状に合わせた治療法の選択、提供が出来るように学習する。										
到 達 目 標		基本的な物理療法について理解し、理論的に説明することが可能である。また、機器の安全かつ正確な操作が実施できる。										
授 業 計 画												
回	テーマ					授 業 内 容						
1	オリエンテーション					授業の進め方						
2	物理療法とエビデンス					物理療法におけるエビデンスを学ぶ						
3	物理療法研究					物理療法における研究を行う						
4	物理療法研究					物理療法における研究を行う						
5	物理療法研究					物理療法における研究を行う						
6	物理療法研究					物理療法における研究を行う						
7	物理療法研究					物理療法における研究を行う						
8	物理療法研究					物理療法における研究を行う						
9	物理療法研究					物理療法における研究を行う						
10	物理療法研究					物理療法における研究を行う						
11	物理療法研究					物理療法における研究を行う						
12	物理療法研究					物理療法における研究を行う						
13	物理療法研究					物理療法における研究を行う						
14	物理療法研究					物理療法における研究を行う						
15	物理療法研究					物理療法における研究を行う						

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	物理療法研究	物理療法における研究を行う
17	物理療法研究	物理療法における研究を行う
18	物理療法研究	物理療法における研究を行う
19	物理療法研究	物理療法における研究を行う
20	物理療法研究	物理療法における研究を行う
21	物理療法研究	物理療法における研究を行う
22	物理療法研究	物理療法における研究を行う
23	物理療法研究	物理療法における研究を行う
24	物理療法研究	物理療法における研究を行う
25	疾患別物理療法	疾患別物理療法
26	疾患別物理療法	疾患別物理療法
27	疾患別物理療法	疾患別物理療法
28	疾患別物理療法	疾患別物理療法
29	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
30	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める
準備学習(予習復習)の具体的な内容		物理療法を実施する場合、生体内でどのような変化が起こるか理解することが大切であり、生理学の知識が必要。生理学の知識の整理、復習を行うこと
成 績 評 価		☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☒ レポート (50 %) ☐ 課題 (%) ☒ 発表 (50 %) ☐ その他 ()
教 科 書		吉田英樹編集 理学療法学テキスト 物理療法学：MEDICALVIEW
参 考 書		網本和、菅原憲一編集 標準理学療法学専門分野 物理療法学 医学書院 庄本康治編集 エビデンスから身につける物理療法 羊土社
授業の留意点・備考		各種物理療法の実習時は軽装を準備すること

科目名	義肢装具学	担当教員	帆鷺 輝誌男
-----	-------	------	--------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		義肢装具士として採型・製作・適合に多くの臨床経験を活かして、役割や総合支援法の制度等について講義・演習を行う事が出来る。（日本義肢装具学会員でもある。）									
授 業 概 要		義肢装具の定義・歴史・目的・構造・素材等の基本的な知識とリハビリテーションにおける。位置付け、及び装具の適合判定について演習を取り入れて学習する。									
到 達 目 標		理学療法士として疾患・症状・状態等を理解して、適応する装具を選択できるようにする。装着後のチェックアウトが出来るようにする。									

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	装具概論（定義・体系別分類・機能による分類・義肢装具の歴史）
2	装具各論：頸椎・仙腸装具	基本構造・種類・機能・目的・適応疾患について理解する。
3	装具各論：腰仙椎・胸腰仙椎装具	基本構造・種類・機能・目的・適応疾患について理解する。
4	装具各論：側彎矯正装具	病因別分類・治療プログラム・機能・構造・チェックアウトについて理解する。
5	装具各論：靴型装具	基本構造・種類・機能・目的・適合について理解する。
6	装具各論：靴型・足底装具	対象疾患に対する各種の補正（踵・内部・外部）について理解する。
7	装具各論：下肢装具	下肢装具を構成する各関節の継手や足部について理解する。
8	装具各論：下肢装具	基本的な部品の名称・構造・機能について理解する。
9	装具各論：短下肢装具	短下肢装具の特徴・種類、基本的な構造・機能について理解する。
10	装具各論：股・膝・長下肢装具	それぞれの特徴や対象疾患・種類、基本的な構造・機能について理解する。
11	装具各論：特殊装具	対麻痺用装具の種類や機能と小児疾患の装具の種類や機能について理解する。
12	装具各論：上肢装具	基本構造・種類・機能・目的・適応疾患・チェックアウトについて理解する。
13	演習：下肢装具のチェックアウト	下肢装具の適合を評価するために、装具装着して歩行を体験する。
14	演習：短下肢装具の採型	ギブス包帯を用いて下腿・足部の採型を体験する。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	整形外科が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習する事。（教科書の予習・復習する。）
成 績 評 価	☒ 定期試験（ 10 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☒ その他（演習の評価）
教 科 書	・義肢装具学 第4版(医学書院) ・義肢装具のチェックポイント 第8版(医学書院)
参 考 書	教科書と同様
授業の留意点・備考	配布資料は必ず確認・理解して、分からない部分は積極的に質問して解決するように努力すること。

科目名	義肢装具学	担当教員	帆鷲 輝誌男
-----	-------	------	--------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		義肢装具士として採型・製作・適合に多くの臨床経験を活かして、役割や総合支援法の制度等について講義・演習を行う事が出来る。（日本義肢装具学会員でもある。）									
授業概要		義肢装具の定義・歴史・目的・構造・素材等の基本的な知識とリハビリテーションにおける。位置付け、及び義肢の適合判定について演習を取り入れて学習する。									
到達目標		理学療法士として疾患・症状・状態等を理解して、適応する義肢を選択できるようにする。装着後のチェックアウトが出来るようにする。									

授業計画		
回	テーマ	授業内容
1	義肢各論：切断と義肢の基礎知識	構造・機能・切断部位による分類と切断レベルとソケットのデザインを理解する。
2	義肢各論：股義足・大腿義足・膝義足	股義足・大腿義足・膝義足のソケットの種類と機能について理解する。
3	義肢各論：下腿義足・サイム義足	下腿義足・サイム義足のソケットの種類と機能について理解する。
4	義肢各論：義足の構造	股継手・膝継手・足継手と足部の種類と機構について理解する。
5	義肢各論：下腿義足のアライメント	正常歩行と重心移動・ベンチアライメント・スタティックアライメントを理解する。
6	義肢各論：下腿義足の異常歩行	下腿義足のダイナミックアライメントとPTBカフベルトの機能を理解する。
7	義肢各論：大腿義足のアライメント	初期屈曲角の設定・ベンチアライメント・スタティックアライメントを理解する。
8	義肢各論：大腿義足の異常歩行	大腿義足のダイナミックアライメントと異常歩行の原因の理解する。
9	義肢各論：股義足	股義足のアライメント・歩行周期と断端の管理について理解する。
10	義肢各論：義手	種類と特徴・切断の部位による分類・構成部品・チェックアウトを理解する。
11	義肢各論：疑似体験	模擬体験義足による立位バランスから歩行練習への流れの理解する。
12	演習：短下肢装具の作製	陽性モデルを用いて、プラスチックの成型加工をする。
13	演習：短下肢装具の作製	プラスチックのトリミング後仮合わせのチェックアウトを理解する。
14	演習：短下肢装具の作製	短下肢装具の仕上げ加工・試歩行して評価する。
15	まとめ	これまでの授業内容を復習し理解を深める

準備学習（予習復習）の具体的な内容	整形外科が基礎となるため履修内容に関連した範囲は必ず学習する事。（教科書の予習・復習する。）
成績評価	☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☐ 課題（ %） ☐ 発表（ %） ☒ その他（演習の評価）
教科書	・義肢装具学第4版(医学書院) ・義肢装具のチェックポイント 第8版(医学書院)
参考書	教科書と同様
授業の留意点・備考	配布資料は必ず確認・理解して、分からない部分は積極的に質問して解決するように努力すること。

科目名	理学療法特論演習Ⅰ					担当教員	理学療法学科教員				
-----	-----------	--	--	--	--	------	----------	--	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	4	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		理学療法学科各教員が臨床経験に基づき、それぞれの分野について教授する。									
授 業 概 要		実際の現場で求められる専門的な視点とその関わりについて学ぶ。 また、リハビリテーションサービスにおける理学療法士の役割や関わりの相違について学ぶ。									
到 達 目 標		臨床実習や資格取得後に経験する症例について病態や特徴の把握を通して理解を深め、さらに生活者として捉え、在宅におけるより具体的な生活イメージの構築につなげる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	理学療法臨床基礎			整形領域における理学療法士の役割							
2	理学療法臨床基礎			整形領域における理学療法士の役割							
3	理学療法臨床基礎			整形領域における理学療法士の役割							
4	理学療法臨床基礎			中枢領域における理学療法士の役割							
5	理学療法臨床基礎			中枢領域における理学療法士の役割							
6	理学療法臨床基礎			中枢領域における理学療法士の役割							
7	理学療法臨床基礎			心大血管領域における理学療法士の役割							
8	理学療法臨床基礎			心大血管領域における理学療法士の役割							
9	理学療法臨床基礎			心大血管領域における理学療法士の役割							
10	理学療法臨床基礎			呼吸器領域における理学療法士の役割							
11	理学療法臨床基礎			呼吸器領域における理学療法士の役割							
12	理学療法臨床基礎			呼吸器領域における理学療法士の役割							
13	理学療法臨床基礎			小児領域における理学療法士の役割							
14	理学療法臨床基礎			小児領域における理学療法士の役割							
15	まとめ			これまで学習したことを復習し、理解を深める。							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		各テーマの前には事前学習に努めること。									
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 80 %） ☒ 課題（ 20 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		なし									
参 考 書		担当教員より都度指示します。									
授業の留意点・備考		遅刻や欠席をしないよう心がけ、最後まで集中して講義に臨むこと。									

科目名	理学療法特論演習Ⅱ						担当教員	理学療法学科教員			
-----	-----------	--	--	--	--	--	------	----------	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	4	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		理学療法学科各教員が臨床経験に基づき、それぞれの分野について教授する。									
授 業 概 要		グループでの学習を通して、これまで学内での講義で学んできた知識に加え、3年次の評価実習で学んことなどを中心に共有を図り、理学療法における評価や治療に対する理解を深める。長期臨床実習に向けた具体的な知識及び技術の体得を図る。									
到 達 目 標		長期臨床実習において必要となる症例に対する理学療法評価ならびに治療に対する考え方を習得する。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	理学療法臨床基礎					整形疾患症例理解と評価					
2	理学療法臨床基礎					整形疾患症例理解と評価					
3	理学療法臨床基礎					整形疾患症例理解と評価					
4	理学療法臨床基礎					中枢疾患症例理解と評価					
5	理学療法臨床基礎					中枢疾患症例理解と評価					
6	理学療法臨床基礎					中枢疾患症例理解と評価					
7	理学療法臨床基礎					心大血管疾患症例理解と評価					
8	理学療法臨床基礎					心大血管疾患症例理解と評価					
9	理学療法臨床基礎					心大血管疾患症例理解と評価					
10	理学療法臨床基礎					呼吸器疾患症例理解と評価					
11	理学療法臨床基礎					呼吸器疾患症例理解と評価					
12	理学療法臨床基礎					呼吸器疾患症例理解と評価					
13	理学療法臨床基礎					小児疾患症例理解と評価					
14	理学療法臨床基礎					小児疾患症例理解と評価					
15	まとめ					これまで学習したことを復習し、理解を深める。					
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		各テーマの前には事前学習に努めること。									
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 80 %） ☒ 課題（ 20 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教 科 書		なし									
参 考 書		担当教員より都度指示します。									
授業の留意点・備考		遅刻や欠席をしないよう心がけ、最後まで集中して講義に臨むこと。									

科目名	理学療法特論演習Ⅲ						担当教員	理学療法学科教員			
-----	-----------	--	--	--	--	--	------	----------	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	4	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		理学療法学科各教員が臨床経験に基づき、それぞれの分野について教授する。									
授 業 概 要		実際の現場で求められる専門的な視点とその関わりについて学ぶ。 また、リハビリテーションサービスにおける理学療法士の役割や関わりの相違について学ぶ。									
到 達 目 標		臨床実習や資格取得後に経験する症例について病態や特徴の把握を通して理解を深め、さらに生活者として捉え、在宅におけるより具体的な生活イメージの構築につなげる。									
授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	理学療法臨床基礎					整形疾患理学療法					
2	理学療法臨床基礎					整形疾患理学療法					
3	理学療法臨床基礎					整形疾患理学療法					
4	理学療法臨床基礎					中枢疾患理学療法					
5	理学療法臨床基礎					中枢疾患理学療法					
6	理学療法臨床基礎					中枢疾患理学療法					
7	理学療法臨床基礎					心大血管疾患理学療法					
8	理学療法臨床基礎					心大血管疾患理学療法					
9	理学療法臨床基礎					心大血管疾患理学療法					
10	理学療法臨床基礎					呼吸器疾患理学療法					
11	理学療法臨床基礎					呼吸器疾患理学療法					
12	理学療法臨床基礎					呼吸器疾患理学療法					
13	理学療法臨床基礎					小児疾患理学療法					
14	理学療法臨床基礎					小児疾患理学療法					
15	まとめ					これまで学習したことを復習し、理解を深める。					
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		各テーマの前には事前学習に努めること。									
成 績 評 価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☒ レポート（ 80 %） ☒ 課題（ 20 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）									
教 科 書		なし									
参 考 書		担当教員より都度指示します。									
授業の留意点・備考		遅刻や欠席をしないよう心がけ、最後まで集中して講義に臨むこと。									

科目名	理学療法専門分野特論	担当教員	理学療法学科教員
-----	------------	------	----------

学科	理学療法学科	年次	4	開講期	後期	単位数	2	時数	60	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	理学療法治療学						選択・必修	必修	

担当教員の実務経験	理学療法士として10年以上臨床に携わった経験から国家試験問題対策を教授する。										
授 業 概 要	国家試験対策として自己学習、ペアでの学習、グループでの学習、特別講義、模擬試験 等を行なう。学習状況や理解度を確認しながら炊事検討を図り、妥当な時期や実施の必要性を見極めながら取り入れていく。										
到 達 目 標	基礎分野の知識をもとに専門分野における疾患や治療に関する知識を理解する。										

授 業 計 画											
回	テーマ					授 業 内 容					
1	オリエンテーション					講義や自己学習の説明					
2	国家試験について					国家試験の傾向について					
3	生体力学					運動学習，身体とテコ，神経伝達速度測定					
4	運動療法					関節可動域運動，伸張運動					
5	運動療法					神経生理学的アプローチ，運動生理，筋力増強運動					
6	リスク管理					リスク管理					
7	物理療法					温熱療法と寒冷療法					
8	物理療法					電気刺激療法，ハイフワード・バック療法，牽引療法					
9	理学療法評価法					徒手筋力テスト関節可動域測定					
10	理学療法評価法					ブルンストローム法，形態測定					
11	内果疾患					運動負荷強度，最大酸素摂取量・エネルギー消費量・呼吸商					
12	呼吸理学療法					呼吸機能評価，呼吸理学療法，在宅酸素療法					
13	小児科学					運動発達，小児の反射反応，脳性麻痺					
14	整形外科学					関節リウマチ					
15	整形外科学					熱傷，腰痛症，頸部・脊椎の障害					

授 業 計 画		
回	テーマ	授 業 内 容
16	整形外科科学	膝関節の障害（変形性関節症含む）
17	整形外科科学	大腿骨骨折
18	整形外科科学	肩関節・上肢の障害
19	整形外科科学	整形外科的検査法
20	脳血管障害	脳血管障害
21	脳血管障害	高次脳機能障害
22	脳血管障害	立位保持・歩行訓練
23	脳血管障害	Pusher現象・肩手症候群
24	神経筋障害	パーキンソン病，多発性硬化症，筋萎縮性側索硬化症
25	神経筋疾患	多発性筋炎，筋ジストロフィー
26	補装具療法	下肢装具・上肢装具
27	ADL	ADLの概念，ADLの評価
28	ADL	FIM, Barthel Index, ICF
29	理学療法概論	インフォームドコンセント，研究法，理学療法士法
30	まとめ	これまで学習したことを復習し，理解を深める。
準備学習(予習復習)の具体的な内容		日々の国家試験過去問やりハナビでの問題回答をしっかりと行なっていく。
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 90 %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 10 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ ）
教 科 書		クエスチョンバンク理学療法士作業療法士国家試験問題解説2022専門問題
参 考 書		その他、専門系科目の教科書
授業の留意点・備考		自分ひとりでの勉強ではなく、グループ学習を通して国家試験合格率の向上に努める。

学科	理学療法学科	年次	2	開講期	後期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	地域理学療法学						選択・必修	必修	

授 業 計 画

準備学習(予習復習)の具体的な内容	障害者や高齢者が生活において困難だと感じる場所や設備をイメージして受講すること。体験や演習では自分が障害者や高齢者だと仮定して取り組むこと。
-------------------	--

教科書	シンプル理学療法作業療法シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版
-----	----------------------------------

授業の留意点・備考	成績は発表や課題を対象とするため、発表の出席、課題の提出を必ずすること。
-----------	--------------------------------------

科目名	生活環境学Ⅱ	担当教員	岩北 耕三
-----	--------	------	-------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義・演習
区分	専門分野	教育内容	地域理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		介護支援専門員の資格と理学療法士として担当症例の住環境整備に10年以上携わった経験を活かし、生活環境について講義を行う。									
授 業 概 要		生活環境学Ⅰを踏まえ、生活環境整備における知識を深める。 自助具や日常生活用具などの福祉用具、高齢者や各疾患特有の住宅改修とそれに関わる法制度を学ぶ。									
到 達 目 標		高齢者や疾患別の生活環境整備、また、福祉用具の知識を習得し、各対象者の生活環境の改善や自立支援ができるようになる。									

計畫業授

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・総論	生活環境学Ⅱに講義を行う領域や住環境整備の意義を総合的に講義する。
2	地域理学療法関連制度	地域理学療法・リハビリテーションに関連する法制度を講義する。
3	介護保険制度	介護保険制度の成り立ちから利用方法まで実践的に講義する。
4	在宅理学療法基礎	在宅理学療法・在宅リハビリテーションの基礎について講義する。
5	在宅理学療法住環境	在宅理学療法・在宅リハビリテーションの中で住環境に関わる制度から整備方法などについて講義する。
6	在宅理学療法福祉用具	在宅理学療法・在宅リハビリテーションにおける福祉用具について講義する。
7	介護予防	介護予防の意義と目的、方法について講義する。
8	住環境演習	住環境に関わる法制度、福祉機器、住宅改修や対象となる疾患や障害の概要について演習を行う。
9	住環境演習	住環境に関わる法制度、福祉機器、住宅改修や対象となる疾患や障害の概要について演習を行う。
10	住環境演習	住環境に関わる法制度、福祉機器、住宅改修や対象となる疾患や障害の概要について演習を行う。
11	住環境演習	住環境に関わる法制度、福祉機器、住宅改修や対象となる疾患や障害の概要について演習を行う。
12	住環境演習	住環境に関わる法制度、福祉機器、住宅改修や対象となる疾患や障害の概要について演習を行う。
13	住環境演習	住環境に関わる法制度、福祉機器、住宅改修や対象となる疾患や障害の概要について演習を行う。
14	住環境演習	住環境に関わる法制度、福祉機器、住宅改修や対象となる疾患や障害の概要について演習を行う。
15	まとめ	これまで学習したことを復習し、理解を深める。

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	授業ごとの復習を行い、内容の理解を深めること
成績評価	☒ 定期試験（ 80 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☐ 小テスト（ ％） ☒ レポート（ 20 ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☐ その他（ ）
教科書	福祉住環境コーディネーター検定試験®2級公式テキスト 改訂5版 福祉住環境コーディネーター2級過去&模擬問題集
参考書	
授業の留意点・備考	・ 授業を欠席しない。 ・ 積極的な授業態度を望む。 ・ わからないことはそのまま済ませず、積極的に質問する。

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	前期	単位数	1	時数	30	授業形態	講義
区分	専門分野	教育内容	地域理学療法学						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		高齢者施設のリハ業務や介護保険計画で地域行政と関わった経験を活かし、地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割や制度・今後の展望について講義・演習を行うことができる。									
授 業 概 要		地域リハビリテーションの背景や現状を理解し、地域における理学療法士としての専門的な関わりを学習する。また、介護保険制度や地域包括ケアシステムに関する知識も深め、今後の理学療法士の在り方を学ぶ。高齢者施設の演習やボランティアに参加して地域貢献活動を学ぶ									
到 達 目 標		1. 地域リハビリテーションに関わる専門職としての知識の習得のみならず、地域で暮らす障害者や高齢者の具体的な支援方法を説明できる。2. 地域リハビリテーションの必要性、関連職種の役割や連携について説明できる。3. 介護保険制度の位置づけを説明できる。訪問リハ・デイサービス・デイケアの目的、対象、具体的内容について説明できる。4. 介護老人保健施設・特別養護老人ホームの目的、対象、具体的内容について説明できる。									
授 業 計 画											
回	テーマ			授 業 内 容							
1	地域リハビリテーションの概念			リハビリテーションの定義。地域リハビリテーションとは。地域理学療法とは							
2	地域リハビリテーション活動			地域リハビリテーション活動とその背景にあるもの							
3	制度の変遷			地域リハビリテーションの歴史・背景							
4	公的介護保険制度における地域理学療法Ⅰ			リハ等通所系サービスにおける理学療法の現状							
5	公的介護保険制度における地域理学療法Ⅱ			介護老人保健施設等の入所サービスにおける理学療法の現状							
6	公的介護保険制度における地域理学療法Ⅲ			訪問リハビリテーションにおける理学療法の現状							
7	公的介護保険制度における地域理学療法Ⅳ			地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割							
8	地域リハビリテーション関連職種			専門職連携の重要性							
9	生活課題に対する理学療法Ⅰ			健常者同士でADL介助を行い正しい介助方法を学ぶⅠ							
10	生活課題に対する理学療法Ⅱ			健常者同士でADL介助を行い正しい介助方法を学ぶⅡ							
11	症例演習Ⅰ			実際の食事動作に関する理解と理学療法							
12	症例演習Ⅱ			実際の排泄動作に関する理解と理学療法							
13	症例演習Ⅲ			実際の入浴動作に関する理解と理学療法							
14	症例演習Ⅳ			実際の行為動作に関する理解と理学療法							
15	まとめ			これまでの授業内容を復習し理解を深める							
準備学習（予習復習） の 具体的な内容		教科書を読んでおく、講義ノートを復習復習する。インターネット等のメディアを通して最新の介護保険事情を調べておくこと。									
成 績 評 価		☒ 定期試験（ 80 ％） ☐ 実技試験（ ％） ☒ 小テスト（ 10 ％） ☒ レポート（ 10 ％） ☐ 課題（ ％） ☐ 発表（ ％） ☒ その他（ 私語や無断退室など受講上望ましくない行為はマイナス評価）									
教 科 書		地域リハビリテーション学テキスト 改訂第3版：南江堂									
参 考 書		講師からの配布資料									
授業の留意点・備考		高齢者支援制度は日々変化している。様々な情報に耳を傾けるよう意識してほしい。									

科目名	理学療法見学実習						担当教員	臨床実習指導者 理学療法学科教員			
-----	----------	--	--	--	--	--	------	---------------------	--	--	--

学科	理学療法学科	年次	1	開講期	前期	単位数	1	時数	45	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		理学療法士の免許を有し、見学実習の指導を行う資格がある者。									
授業概要		当校における1年次の実習は、早期臨床体験実習と同じ位置づけで行い、養成校入学時の漠然とした理学療法士になるという目標から、具体的な理学療法士像を構築し明確な目標を持つことを目指す。									
到達目標		将来理学療法士となる上での資質の向上を図ることを目的としている。資質とは、認知・情意・精神運動の3つの領域における適正と考えている。ただし、今回の実習においては、認知領域および情意領域の向上を図ることとする。									
授業計画											
回	テーマ				授業内容						
1	臨床理学療法の見学				令和3年8月30日（月）～9月4日（土）までの1週間						
2					各々の臨床実習施設で実施する						
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習（予習復習） の 具体的な内容											
成績評価		☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 100 %） ☐ 発表（ %） ☐ その他（ %）									
教科書											
参考書											
授業の留意点・備考											

科目名	短期実習	担当教員	臨床実習指導者
-----	------	------	---------

学科	理学療法学科	年次	3	開講期	後期	単位数	3	時数	135	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験											
授 業 概 要		各種理学療法適応疾患における実際を理解し、認知領域・情意領域・精神運動領域それぞれの向上を図り、長期実習並びに卒業後の実務へと繋げる。									
到 達 目 標		各種疾患の病態を理解し必要な理学療法評価を行うことができる。また理学療法の対象となる問題点を抽出し、目標の設定や対象に適切な理学療法プログラムの立案ができる。									

授業計画		
回	テーマ	授業内容
1		短期実習：令和4年1月11日（火）～令和4年1月29日（土）
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

準備学習（予習復習） の 具体的な内容	解剖学、運動学、生理学はもとより、疾患の基礎知識や検査測定の意味、目的の復習を行う。また、基本的な検査測定手技の練習を十分に行うこと。
成績評価	☐ 定期試験（ %） ☐ 実技試験（ %） ☐ 小テスト（ %） ☐ レポート（ %） ☒ 課題（ 100 %） ☐ 発表（ %） ☒ その他（総合的に判断する ）
教科書	必要なものを準備すること。
参考書	必要なものを準備すること。
授業の留意点・備考	・実習に関わる全ての方々に感謝し相手の立場にたって丁寧に接すること。 ・積極的学習ならびに実習に取り組むこと。対象者に感謝の気持ちを持って接すること。

科目名	長期実習					担当教員	臨床実習指導者 理学療法学科教員				
学科	理学療法学科	年次	4	開講期	通年	単位数	18	時数	810	授業形態	実習
区分	専門分野	教育内容	臨床実習						選択・必修	必修	
担当教員の実務経験		臨床実習指導者は臨床経験3年以上、理学療法学科教員は臨床経験5年以上の経験を有している。									
授業概要		臨床実習指導者の指導のもと、評価から治療および記録・報告などの一連の理学療法業務を経験し修得するとともに、包括的リハビリテーションにおける理学療法の意義を考え、理学療法士の役割と機能を学ぶとともに、今後進むべき方向性や研究テーマを考える									
到達目標		臨床実習指導者の指導を受けながら、現場のスケジュールに従って行動し、理学療法業務全般を経験する。 臨床の現場で対象者の評価、治療計画立案、具体的治療を実践する。 対象者から得られた情報など必要に応じて記録・報告する。									
授業計画											
回	テーマ			授業内容							
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
準備学習(予習復習)の具体的な内容											
成績評価		☐ 定期試験 (%) ☐ 実技試験 (%) ☐ 小テスト (%) ☐ レポート (%) ☐ 課題 (%) ☐ 発表 (%) ☒ その他 (%) OSCI, 評価表, ポートフォリオ等から総合的に判断									
教科書											
参考書											
授業の留意点・備考											